

蕨 平 遺 跡

—国道117号市川バイパス道路改良事業発掘調査報告書—

1 9 9 4 • 3

飯山建設事務所
野沢温泉村教育委員会

蕨 平 遺 跡

—国道117号市川バイパス道路改良事業発掘調査報告書—

1994・3

飯山建設事務所
野沢温泉村教育委員会



石 刀



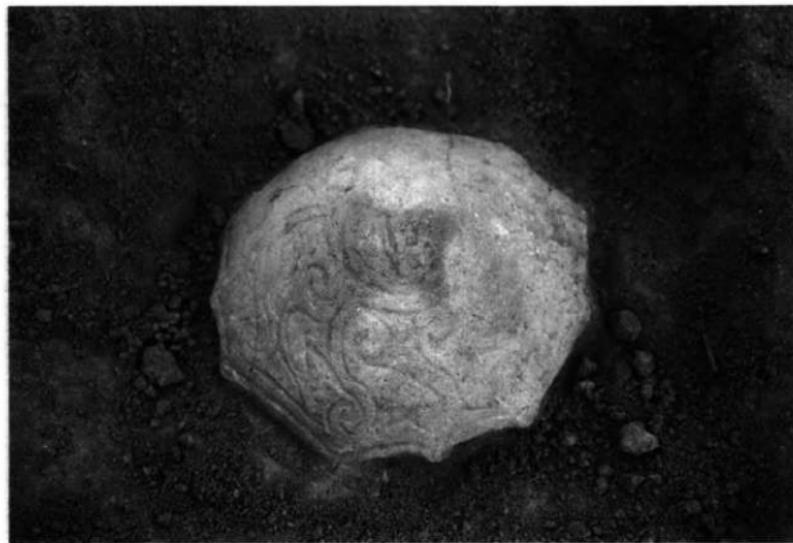
6号埋甕



熊平遺跡全景



3号石棺墓



浅鉢

序

文献のない遠く古い時代の村人の生活を知るには、発掘した遺跡、遺物の存在を手がかりにして、往時の人々の生活状態を推測しなければなりませんが、本村の遺跡は、野沢温泉村史によれば村内全域13ヶ所に散在しています。

思うに毛無山西部の山麓にひろがる本村は、深雪による生活の苦労を除けば自然災害はきわめて少なく、気温は比較的温和であり、狩猟生活の時代に生きた人々にとっては、豊かな山の幸や千曲川とその支流の川の幸にも恵まれ、豊富な温泉も湧出し、生活するには自然環境が大変よかったです。今回発掘調査をした千曲川右岸の河岸段丘上に位置する東大滝の蕨平遺跡も、狩猟を中心としたこの時代に生きた人々にとっては恰好の住みかであったと思います。

この度、平成7年1月、当村で開催されるインダースキーをめさし、それに間に合うように国道117号市川バイパスの開通事業が進められるにあたり、この蕨平遺跡がその路線上にあたりました。この貴重な遺跡を後世に伝える記録保存をするため、緊急発掘調査することになりました。祖先の残してくれた貴重な文化遺産を大切に守ることは、私たちに課せられた責務であります。

調査団長の高橋桂先生ならびに蘿山市埋蔵文化センターの調査員各位のご指導ご援助を賜り、また地元の方々を中心とした作業員の多くの皆さんのご協力を戴いて、平成5年5月24日、発掘調査に着手し、9月16日、約4カ月の現地作業を終え、お陰様で初期の目的を達成し、ここに縄文時代後・晩期のものを中心にしたこの遺跡の調査報告書をまとめることができました。お骨折り戴いた各位に心から感謝申しあげる次第であります。

この報告書が住民の皆さんはじめ広く関係各位に読まれ、私達祖先の生活を偲ぶとともに、地域の将来の発展に役立つ資料として活用されることを念願する次第であります。

平成6年3月

野沢温泉村教育委員会
教育長 日台源太郎

例　　言

- 1 本書は、長野県下高井郡野沢温泉村大字東大池字天ヶ沢に所在する蕨平遺跡の緊急発掘調査報告書である。
- 2 調査は、国道117号市川バイパス道路改良事業に伴い、飯山建設事務所の依頼を受けて、野沢温泉村教育委員会が事業主体となり、平成5年(1993)5月～9月に実施した。
- 3 発掘調査は、野沢温泉村教育委員会が下記に掲げる調査会を設立し、調査団を組織して実施した。

平成5年度　蕨平遺跡調査会

会　長 斎藤 隆(野沢温泉村教育委員長)

副会長 日吉源太郎(野沢温泉村教育長)

委　員 高橋 桂(日本考古学协会会员) 富井 盛雄(野沢温泉村文化財保護審議委員)

桃井伊都子(飯山市埋蔵文化財センター調査員) 鈴木 一豊(東大池区長)

斎藤 瞭(野沢温泉村議会議員) 江尻 昭二(野沢温泉村公民館長)

岸 亨(野沢温泉村文化財保護審議委員)

事務局長 南雲 一徳(村教育委員会教育次長)

事務局員 大日方敏子(社会教育係長) 小島 宗一(社会教育係)

調査団

團　長 高橋 桂(飯山北高校教諭)

調　査　員 桃井伊都子(飯山市埋蔵文化財センター調査員)

作業参加者(順不同)

水井 正一・鈴木 さだ・水井 茂子・鈴木友一郎・鈴木 のり・鈴木テル子・鈴木 超平・鈴木 一枝・

鈴木 稔・鈴木 義平・鈴木 義博・鈴木こゆき・江尻 正一・江尻 純二・石沢 悅次・中島 進・

樋山 巍・北条 史男・樋口 栄・桃井 鈴奈・内田ミヤ子・富井 村子・久保田ふみ・

久保田よしい・河野 とく・畔上ふみ子・片桐つね子・品沢 泰子・南雲めぐみ・上倉美穂子・

富井 黒代・片桐まや子・富井 祐子・富井 礼子

整理参加者(順不同)

桃井伊都子・南雲めぐみ・片桐まや子・富井 祐子・富井 礼子

- 4 蕨平遺跡については、坂祐秀一教授(立正大学)より御教授を受けた。なお、発掘調査に際しては、飯山市教育委員会の協力をいただき、同市埋蔵文化財センター(望月静雄・常盤井智行両氏)の指導を得た。
- 5 本書の作成は、小島宗一・富井礼子が中心となって行ったが、土器・土製品については、国立歴史民俗博物館の大原正義氏・石器(打製石斧・スクレーパー・尖頭器・石鎌・ドリル)については、飯山市教育委員会の望月静雄氏に分類・作図・トレース・執筆をお願いした。記して感謝申し上げる。
- 6 本書の編集は、野沢温泉村教育委員会が主体となり、高橋團長が統括した。

目 次

巻頭図版

序

例 言

第1章 調査経過

1 発掘調査に至る経過.....	1
2 発掘調査の概要.....	1
1) 発掘調査方法.....	1
2) 調査区の設定.....	5
3) 発掘調査日誌.....	5

第2章 遺跡の位置と環境

1 遺跡の地理的位置と自然環境.....	10
2 遺跡の歴史的環境.....	11

第3章 縄文時代の遺構と遺物

1 遺 構.....	15
1) 石 棺 墓.....	15
2) 墓 壇.....	22
3) 石 囲 炉.....	29
4) 烧 土.....	29
5) 土 坑.....	30
2 石 器.....	37
1) 打製石斧.....	37
2) スクレイバ.....	37
3) 尖 頭 器.....	37
4) 石 鐵.....	39
5) ドリル.....	39
6) 磨製石斧.....	42
7) 玉 頬.....	42
8) 石 刀.....	42
9) 石 剣.....	42
10) 石 棒.....	42
11) 凹 石.....	42
12) 磨 石.....	43
13) 敷 石.....	43
14) 鞘 石.....	43

15) 台付石皿	43
3 土 器	53
4 土 製 品	53
1) 耳 飾 り	53
2) 土 偶	53
第4章 中世の遺構と遺物	
1 遺 構	66
2 遺 物	66
第5章 ま と め	

挿 図 目 次

第1図 農平遺跡の位置	2	第12図 焼土実測図	29
第2図 調査区周辺の地形	3	第13図 土坑実測図(1~4)	30~33
第3図 調査地土層図	4	第14図 石器実測図(1~4)	38~41
第4図 調査区グリッド設定図	5	第15図 石器実測図(1~5)	44~48
第5図 調査地周辺の遺跡	12	第16図 土器拓影図(1~12)	54~65
第6図 調査地全体図	13・14	第17図 中世遺構・遺物検出位置図	67
第7図 石棺墓分布図	16	第18図 火葬墓実測図	68
第8図 石棺墓実測図(1~5)	17~21	第19図 珠洲系陶器	68
第9図 埋甕・焼土・土坑分布図	23・24	第20図 錢貨拓影図	68
第10図 埋甕実測図・出土状態図(1~6)	25~28	第21図 銅製仏具実測図	68
第11図 石函炉実測図	29		

表 目 次

表1 土坑一覧表	34~36
表2 石器計測表	49~52
表3 錢貨一覧表	68

第1章 調査経過

1 発掘調査に至る経過

平成4年11月19日、飯山建設事務所より国道117号市川バイパス道路改良工事に伴い遺跡の照会があり、東大境天ヶ沢地籍が蔚平遺跡の範囲内であった。このため村教育委員会は、県文化課に指導主事の派遣を申請し、12月1日に現地協議を実施した。協議には、県文化課、飯山建設事務所、および村教委の3者が出席した。飯山建設事務所の説明では、バイパス工事が進行しており、工事時期も限られているため、ルートの変更は難しく、早く工事に着手したいとの意向が示された。県文化課は、遺跡範囲内であるためルート変更不可能の場合、事前の発掘調査が必要であるとの見解を示した。

平成4年12月9日 文化財保護法57条による埋蔵文化財発掘届けを提出する。

12月26日 付けて県教育委員会教育長より、「国道117号線道路改良事業（野沢温泉村市川バイパス）に係る蔚平遺跡の保護について」の回答があった。事前に発掘調査を実施して、記録保存を計るというもので、費用は飯山建設事務所が負担することが示された。

平成5年4月15日 飯山建設事務所長より「埋蔵文化財包蔵地発掘調査依頼書」が提出され、同15日付けで発掘調査委託契約を締結する。

4月16日 調査団長に高橋桂氏、調査員に飯山市埋蔵文化センターの桃井伊都子氏をお願いする。

5月12日付けで文化財保護法第98条による埋蔵文化財発掘通知を提出する。

5月19日 蔚平遺跡調査会を開催する。

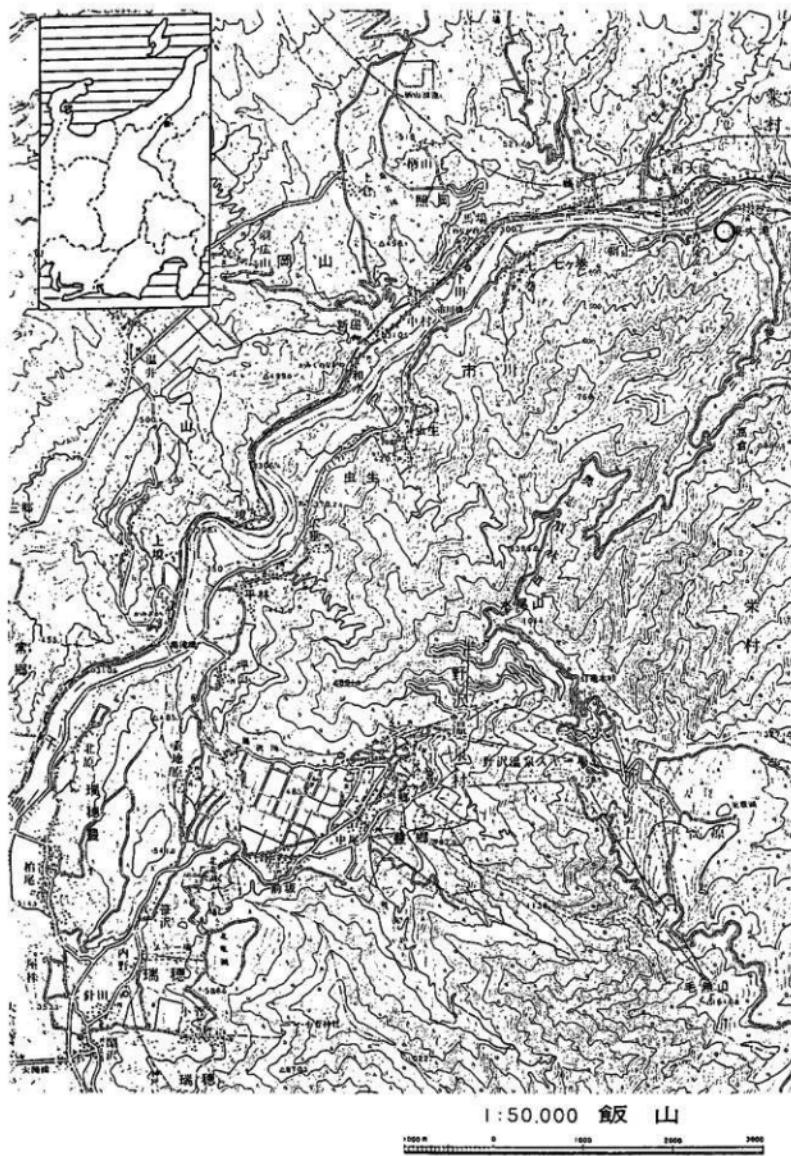
5月24日 発掘調査を開始する。

2 発掘調査の概要

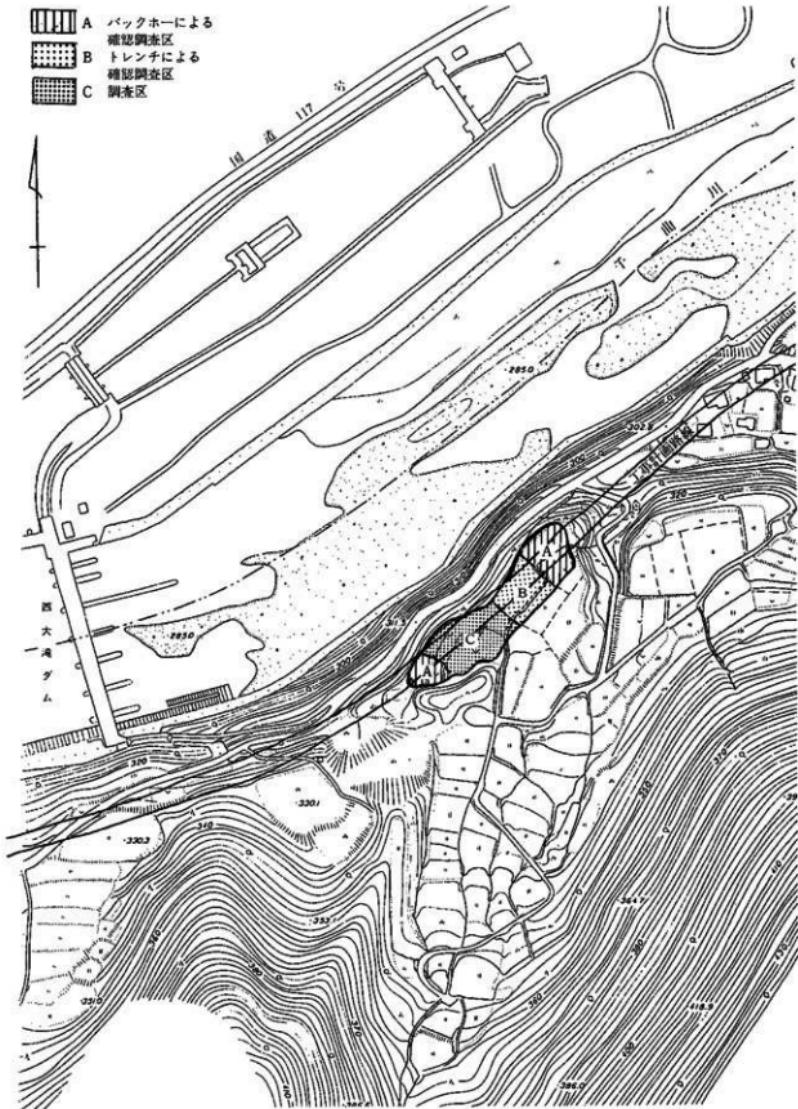
1) 発掘調査方法

今回の発掘は、従来の知見に基づいて、遺跡範囲と考えられる部分（図2-A・B・C地区）について遺物・遺構の確認を行った。A地区については、6カ所バックホーにより確認調査を行った。またB地区については全面バックホーによる耕作土の除去及びトレーナによる確認調査を行った。その結果、過去の水田造成により破壊されていたため、調査区域から除外した。C地区については、バックホーによる耕作土の除去を行った際、遺物が多数確認されたため、発掘調査を実施することとした。

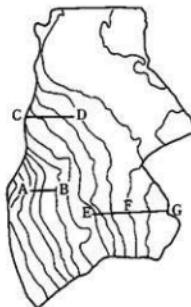
調査はまず、バックホーにより耕作土の除去を行い、調査区を設定した。調査地中央部C-13区より精査を開始、区ごとに精査、検出、写真、測量、取り上げを無遺物層まで数度繰り返し掘り下げた。無遺物層までの掘り下げ完了後、土坑の掘り下げを行い、全体図作成は空中写真測量で行った。



第1図 藤平遺跡の位置 (1:50,000)

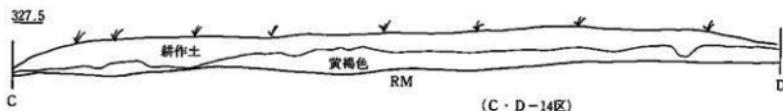


第2図 調査区周辺の地形 (1 : 2,500)

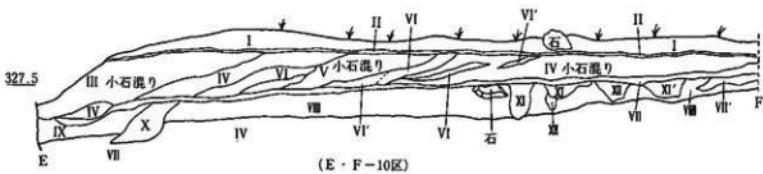


327,5

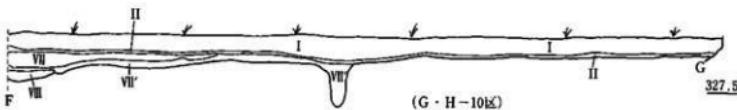
(C-11区)



(C + D = 14%)



(E · F-10区)



(G + H = 10 kN)

E - F - G 土層

I : 水田耕作土。

II：赤田盛雲土（赤前褐色、固い）3~5cmの厚さ。

暗褐色と黄土色の混色（2-3cm暗褐色の塊まりが混じる。その他は草と暗の細目共の混りり）。

IV：暗褐色と黃色土の混合（川より葦が強く、地山にまだらに黒土が混入）

V: 暗褐色土(黒土)にわずかに薄黄色土が混じる。(1-2-4の黄が点々と混じる)

V:暗褐色土(黒土)におけるかに黃色土が混じる
VI:田とVの中間の色合い(黄と黒土の接觸部)

VII：ⅢとVの中間の色合（黄と黒主のぼは革々の
色）：ⅢとVに似た色調である。V（100%）：16選より

VI: VIと同じだが黄ブロック

VII：暗褐色（墨土）細かい粒子。炭、遺物が多い。

VII: VIIよりやや黒がつよい。

暗褐色（地山の色よりやや暗い程度）

IX：地山に暗褐色土がまだらに混じる。

X：やや黒味の強まる暗褐色（図より）

組：VIIにねずみに薦主が混ざる（45g）

Ⅳ：即に本を草木アロマ (45cm)

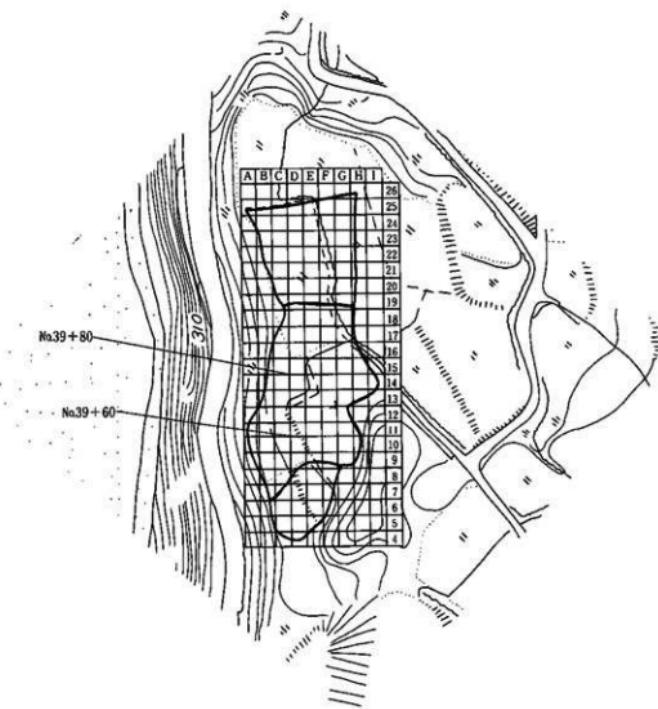
題：萬士に關する研究調査による、急調付

■：黄土に墨土がやや混じる、色調は

第3図 調査地土層図

2) 調査区の設定

調査区の設定は、計画道路センター杭No39+60、No39+80を基準に経軸を道路センター杭に合わせ方眼を組み、南西側から1・2・3・・・・、北西側からA・B・C・・・・と番号を付した。基準レベルは建設事務所作成の1/1000道路周辺図に示されたBM318.930mを使用した。



第4図 調査区グリッド設定図 (1 : 1,500)

3) 発掘調査日誌

- 5/11 現場打ち合わせ。
北側より予定道路センター杭を中心に10m幅で重機による表土排除を行う事とする。
- 5/13 畑地表面の石器・土器を探集を行う。
- 5/18 コンテナハウス設置。調査区北側水田よりバックホーにより表土排除開始。耕作土 5cm~10cmで下は地山となった。(25~20区)
- 5/19 バックホーによる表土排除作業(19~10区)。縄文後期の土器・石器多数検出。蕨平遺跡調査会開催。

- 5/21 重機による1回目の表土排除終了。グリットの設定。
- 5/24 午後1時30分より発掘開始式
C・D-13・14区地点から表土除去開始。土器、石器多数、注口土器片2点検出。
- 5/25 C・D-13・14区の精査。有舌尖頭器、足付き石皿検出。
- 5/26 C・D-13・14区の精査。
- 5/27 E-13・14区の精査。
- 5/28 C・D-13・14区を精査。無茎石錐、磨石検出。E-13・14区を精査。注口土器片検出。
- 5/31 C-E-13・14区の精査。
- 6/1 C-E-13・14区を精査。尖頭器、スクレイバー検出。F・G-11・12区の表土除去。
- 6/2 E-13・14区を精査。スクレイバー検出。F・G-11・12区を精査。土器多数検出。F-11より石剣検出。C・D-13・14区を精査。網代底の土器片、石錐等検出。
- 6/3 前夜の雨により現地作業は中止、終日土器洗い。
- 6/4 E-13・14区の精査。F・G-11・12区を精査。磨製石斧、尖頭器、石棒、スクレイバー検出。午後土器洗い。
- 6/7 C-E-13・14区を精査。B・C-11・12区の表土除去。F-13・14表土排除、石垣の石除去。
- 6/8 F-13・14を精査。磨石検出。F-13区より埋甕出土(1号)。壺内の中央よりヒスイの玉が検出された。C-E-13・14区を精査。B・C-11・12区を精査。尖頭器、ドリル、石棒等検出。
- 6/10 F・G-11・12区を精査。石棒、注口土器片検出。黒曜石の石錐、尖頭器、無茎石錐等が検出された。E・F-11区の表土除去。C-E-19区、C-21区試掘調査。午後雨のため作業中止。
- 6/11 E・F-10区の土層観察。F・E-11・12区を精査。ドリル、注口土器片検出。C・D-12区を精査。ドリル検出。C-E-21・23区の試掘調査。午後土器洗い。
- 6/14 午前土器洗い。C-E区-25の試掘調査。C-12区を精査。ドリル検出。G-13・14区の表土除去。E-11・12区を精査。
- 6/15 C・D-12区を精査。G-13・14区を精査。注口土器片検出。C・D-14区の土層図作成、写真撮影。午後土器洗い。
- 6/16 13・14-G・H-13・14区を精査。中世陶器、磨製石斧、無茎石錐、尖頭器等検出。A-E-19~24区を精査。G-I-21~25区を精査。C-11土層観察、作図、写真撮影。G-10・11・12バックホーによる表土除去。
- 6/17 G・H-13・14区を精査。I-13・14区で土坑を探査。F-11・12区を精査。軽石検出。G-I-17~25区を精査。17~19区バックホーによる表土除去。
18・21区2m幅で試掘。19区水田の畦の帯を振り下げる。G-I-17~25区写真撮影。
- 6/18 野沢温泉小学校54名見学。F-H-15区の表土除去。土器底部、石皿、石刀、打製石斧検出。F-12区を精査。市川小学校冒険クラブ見学。
- 6/21 G・H・I-15の表土除去。C・D-13・14区を精査。C・D-12区を精査。F-16区の表土排除。
- 6/22 C・D-11・12区を精査。F-G-16・17区の表土除去。石錐検出。E-11・12区を精査。G・H-14区を精査。G-15区石刀出土状況実測、レベル測量。
- 6/23 終日土器洗い、注記作業。
- 6/24 B-D-10・11間セクションベルト排除。E-G-10・11間土層観察写真撮影。B-D-11・12区を精

- 査。G-11区を精査。C・D-12区写真撮影。
- 6/25 C・D-12~14区を精査。石鎚数点検出。H・I-13~15区の表土除去。頁岩の尖頭器検出。F・G-11~15を精査。G-12区から土偶検出。
- 6/28 E-G-11~14区を精査。石鎚、無茎石鎚、ドリル、磨石、尖頭器検出。
H・I-13・14区石配置図作成。C・D-12区を精査。F-13区から埋甕を検出(2・3号)。
- 6/29 終日注記作業。
- 6/30 土器洗い、注記作業。
- 7/1 G-11・12区を精査。ドリル、敲石検出。G-13・14区を精査。E・F-11・12区を精査。B-12区を精査。
- 7/2 E-G-11・12区を精査。G-I-13・14区土坑掘り下げ。土坑より尖頭器、ドリル検出。G-13区P₁から『開元通宝』『治平元宝』が検出。
- 7/5 終日土器洗い。
- 7/6 市川小学校児童見学。
G・H-13・14区土坑掘り下げ。H-13区P₄から銅製仏具検出。H-14区P₅から珠洲系陶器検出。E・F-11・12区を精査。チャートのドリル検出。
- 7/7 E-G-11・12区を精査。ドリル、耳飾検出。E・F-13・14区を精査。
- 7/8 B・C-12区を精査。F・G-12区を精査。E-11・12区を精査。E・F-13・14区土坑掘り下げ。G-15区を精査、凹石検出。
- 7/9 午前土器洗い。
午後E-G-11~14区土坑掘り下げ。G-11区火葬墓写真撮影。E~H-15区を精査。敲石検出。
- 7/12 午前土器洗い、注記。
午後G-15区を精査。E-15区を精査。C-12区を精査。
- 7/13 昨夜からの雨のため、午前土器洗い、注記作業。
E-G-16区を精査。磨石検出。
- 7/14 終日土器洗い、注記。
- 7/15 終日土器洗い、表記。
- 7/16 H-15区を精査。D-G-15区を精査。埋甕1実測。
- 7/17 G・H-17・18区の表土除去。C-E-16区の表土排除。E-G-15区を精査。スクレイバー、磨石検出。C-11区を精査。午後土器洗い。
- 7/20 D-G-15区を精査。G-15区からドリル検出。E-G-17・18区の表土排除。耳飾検出。E-18区より埋甕4検出。D-F-16区を精査。スクレイバー検出。F-16区から磨製石斧、土器検出。
- 7/21 F・G-15区を精査。C-D-10区の表土排除。B-D-11・12区を精査。尖頭器検出。B・C-11・12区試掘。C-E-12区石群検出、写真撮影。G-11区火葬墓実測。G-13区埋甕1実測。C-18区の表土排除。E-17・18を精査。無茎石鎚、ドリル検出。
- 7/22 埋め甕1実測。火葬墓実測。C-15、G-16区を精査。敲石検出。C-G-16区を精査。耳飾検出。C-D-17・18区の表土排除。尖頭器、スクレイバー検出。C-G-19区の表土除去。F-19区からかまと石組み検出。写真撮影。G-19区から磨製石斧検出。
- 7/23 E-16区を精査。D-G-17区を精査。C-D-17・18区を精査。E-18区埋甕4実測。E-17区から

浅鉢検出。

- 7／24 C・D-18区を精査。D-16、G-17・18区を精査。E-18区出土埋甕(4号)実測。
E-18区を精査。
- 7／26 D・E-16・17区を精査。耳飾2点検出。E～G-18区を精査。石棒、凹石、磨石検出。埋甕5実測。
- 7／27 C～G-17～19区写真撮影。D～F-16・17区石棺墓探索、掘り下げ。石棺墓7よりドリル、耳飾、注口土器片検出。4号石棺墓と16号石棺墓より耳飾検出。D～F-18・19区土坑掘り下げ。打製石斧、凹石、無茎石鏃、スクリエイバー、耳飾検出。F-18P₁₁より赤色顔料出土。
- 7／28 C～G-18・19区土坑掘り下げ。凹石、磨石、耳飾検出。
- 7／29 C～G-18・19区土坑掘り下げ。耳飾り、注口土器片検出。G-18区P₁脇から變換出。
- 7／30 C～G-17～19区土坑掘り下げ。磨製石斧検出。17-G区P₁から磨製石斧、土器多数検出。雨のため、午後中止。
- 8／2 16～19-C～G区土坑掘り下げ。磨製石斧、ドリル、凹石、軽石、耳飾検出。15-D～H区を精査。打製石斧検出。
- 8／4 F～H-13・14、E～G-11・12区を精査。埋甕5検出。C・D-15区を精査。埋甕4写真撮影。
- 8／5 土坑掘り下げ。
- 8／6 午前、注記。午後、土坑掘り下げ。
- 8／7 石棺墓1、半掘写真撮影。石棺墓2、半掘写真撮影。G-17区P₄、P₁₀内石組実測。3号埋甕実測。土坑掘り下げ。
- 8／9 3号埋甕取り上げ。G-17区P₁₀石組掘り下げ。G-17区P₄石組実測終了。土坑掘り下げ。午後、雨のため土器洗い。
- 8／10 5号埋甕実測。G-14区P₁₀石組実測。F～H-15・16区土坑掘り下げ。軽石、磨製石斧、磨石、敲石、尖頭器、注口土器片検出。
- 8／11 15・16区土坑掘り下げ。耳飾数点、注口土器片検出。H-18区甕半分検出。G-18区P₁₀実測終了。
- 8／12 F～H-16～18区出土土坑掘り下げ。15号石棺墓より小型磨製石斧検出。F-18区P₁脇の甕実測。
- 8／18 E～I-11～14区土坑掘り下げ。注口土器片検出。F-12区を精査。土器片多数検出。
- 8／19 朝、土器洗い。F～H-11～13区土坑掘り下げ。耳飾検出。2号埋甕実測。
D-18区P₁₁石組実測。
- 8／20 F～I-14区土坑写真撮影。2号埋甕実測続行。午後、土器洗い。
- 8／21 F～I-14区土坑掘り下げ。I-14区P₁より『洪武通宝』検出。P₁より凹石検出。午後、雨のため中止。
- 8／23 F～I-14区土坑掘り下げ。石棺墓掘り下げ。
- 8／24 10・11間土層図作成。E～I-11～14区土坑掘り下げ。磨製石斧、磨製石器、ドリル、スクリエイバー、注口土器片検出。
- 8／25 土坑掘り下げ。写真撮影のため、15～19区清掃。
- 8／26 第1回目の空中写真撮影。10・11区间土層図終了。11～14区土坑掘り下げ。
9・10区の表土排除。
- 8／27 E～H-9・10区の表土排除。6号埋甕、磨製石斧、敲石検出。B～F-12・13区を精査。
午後、雨のため中止。

- 8／28 E～H－9・10区を精査。磨製石斧検出。B～F－12・13区を精査。写真撮影済み石組の石除去。土坑掘り下げづづき。
- 8／30 E・F－9・10区を精査。E～G－11・12区土坑掘り下げ。空中写真撮影後石棺等掘り残しを掘り下げる。B～D－11・12区土坑掘り下げ。
- 8／31 E～H－9・10区を精査。10・11間土層観察帯排除。空中写真撮影後石棺等掘り残しを掘り下げる。
- 9／1 空中写真撮影後石棺等掘り残しを掘り下げる。E～H－9・10区を精査。
- 9／2 E～H－9・10区を精査。土坑掘り下げ。
- 9／3 6号埋甕写真撮影、実測。B～H－9・10区を精査。石組み土坑掘り。
- 9／4 第2回空中写真撮影のための清掃。
- 9／6 第2回空中写真撮影のための清掃。B～D－9～12区土坑掘り下げ。磨製石斧検出。E～G－9～11区土坑掘り下げ。ロームマウンドより耳飾、磨製石斧、無茎石錐、尖頭器等、多数検出。
- 9／7 第2回空中写真撮影準備。石棺墓付近の清掃。土坑掘り下げ。
- 9／8 石組土坑掘り下げ。
- 9／9 石組土坑掘り下げ。
- 9／10 第2回目空中写真撮影。
- 9／11 第2回目空中写真撮影。未完成土坑掘り下げ、実測、写真撮影。
- 9／13 未完成土坑掘り下げ、実測。3号、5号、12号石棺、F－19区焼土1の石取り上げ。礫集石のたちわり。
- 9／16 ロームマウンド掘り下げ。
- 9／22 整理作業開始。

第2章 遺跡の位置と環境

1 遺跡の地理的位置と自然環境

遺跡は、下高井郡野沢温泉村東大滝天ヶ沢に所在する。千曲川が長野県に残す平が飯山盆地である。この盆地を悠々と蛇行しつつ流れてきた千曲川は、盆地の北端、戸狩地蔵をとると左右からせまる急峻な山地間をかん入蛇行しつつV字谷を形成しつつ新潟県へと流れ去っている。このV字谷は一般に市川谷と称呼されている。千曲川の左右両岸には、小段丘、小平地が連続しそこに集落が存在する。市川谷の南半は、右岸が野沢温泉村市川地区、左岸が飯山市岡山地区である。なお、北半は栄村となっている。

千曲川の右岸は、毛無火山等の裾野が千曲川に突出して、急崖となっている。そして、裾野に点々と存在する小段丘、小平地に北から明石、東大滝、朝上、七ヶ巻、虫生、矢垂、平林、坪山の各集落が存在している。

遺跡の所在する天ヶ沢も千曲川が形成した小河岸段丘である。この段丘は蕨平とよばれている。遺跡の北東には、上ノ平高原北の灯籠木崎付近に源を発する池の沢川が、千曲川に流入している。この池の沢川の流入口に東大滝の集落がある。

一方、左岸にあたる飯山市岡山地区は、千曲川沿岸の低地と、急激に200mほど比高差をもつ高原状台地とに分けられる。この台地は、新潟県との県境をなす関田山脈の主峠倉山の溶岸台地であり、岡山上段と通称されている。この台地は関田山脈より流下する小河川によって区切られており、区切られたそれぞれの小台地に北より柄山、土倉、羽広山、温井の各集落が立地している。千曲川沿岸は、関田山脈より流下する小河川によって形成された小扇状地、断層崖下の小台地、千曲川の形成した狭長は沖積地より成り立っている。そして、これからの平地面に北から西大滝、藤沢、馬場、下田、中村、新屋、和水、下境、上境の各集落が立地する。

千曲川によって分断されている左右両岸の集落間の交流は、往時は専ら渡船によって行われていた。

市川谷を流れる千曲川には、河床が段差をもって流れる滝とよばれる場所が3ヶ所ある。湯滝、大滝、小滝である。この内最大のものは、いうまでもなく大滝である。この大滝の右岸に存在する集落が東大滝、左岸にあるのが西大滝である。この大滝の大きな落差を利用して、東京電力株式会社が信濃川発電所を計画した。即ち大滝にダムを建設、取水して約20kmほど下流の新潟県津南町鹿度で発電するという計画であった。1936年(昭和11年)着手、1940年(昭和15年)に完成した。西大滝ダムと称されるのがこれである。西大滝ダム建設の折に余った土石は、トロッコでもって運ばれ、遺跡地の一部に堆積された。

遺跡は、この西大滝ダムに近接する千曲川右岸の小段丘上にある。遺跡と千曲川河床との比高差は約20mである。

市川谷地帯は、日本でも有数の豪雪地帯である。現今、除雪機械の導入で冬期でも交通路は確保されるようになったが、往時は「雪に埋もれて小半年」と十日町小唄にあるように、半年近く雪に埋もれる生活を余儀なくされていたのである。このようなきびしい自然環境の市川谷にも、先史時代以来人間の活動は行われていた。冬期のきびしい市川谷も、春には素晴らしい自然の恵みがある。ウド、フキ、ワラビ、ゼンマイ、竹の子をはじめとして山菜が実に豊富である。蕨平という呼び名もワラビが多く採れるところから命名されたのかも知れない。また、千曲川には、鮭、鱒が多くのぼってきたし、その他の魚類も豊富である。千曲川に流入する小河川にはイワナ、ヤマメ等も多く棲息する。周囲の山地には、ブナをはじめとして多種の樹木が繁茂し、堅果類が豊富である。

2 遺跡の歴史的環境

自然環境に厳しい市川谷にも、先史時代以来人間の生活が営まれていた。以下、時代ごとに触れていく。

旧石器時代についてみると、まず坪山出土の尖頭器があげられる。惜しいことにこの石器の出土地点は不明である。ただ奥信濃で最も早く注目された石器の一つであって、学史的な価値が高い。坂詰秀一氏によって調査された蕨平遺跡も旧石器の遺跡である。また、上ノ平でも旧石器時代の遺物が発見されている。野沢温泉村では、以上の三ヵ所があげられるだけである。

千曲川左岸の飯山市側には、旧石器時代の遺物が多い。岡山上段といわれる広々とした高原状の地形が広がっているせいかも知れない。新堤、トトノ池南遺跡ハ、飯山市教育委員会によって調査され、良好な資料を得ている。オリハンザ、水の沢、中外、中塚谷地、西外峯も旧石器時代の遺物である。

縄文時代では、草創期の遺跡は野沢温泉村には今の所発見されていない。岡山上段のカササギ野池から発見された爪形文土器が、市川谷における唯一の資料である。早期になると虫生B遺跡があげられる。ここからは早期の押型文土器が発見されている。飯山市側では、早期の遺跡が多い。トトノ池南、鳴沢頭、カツボ池、向原、藤沢下り尾等の遺跡がある。いずれも押型文土器が発見されている。

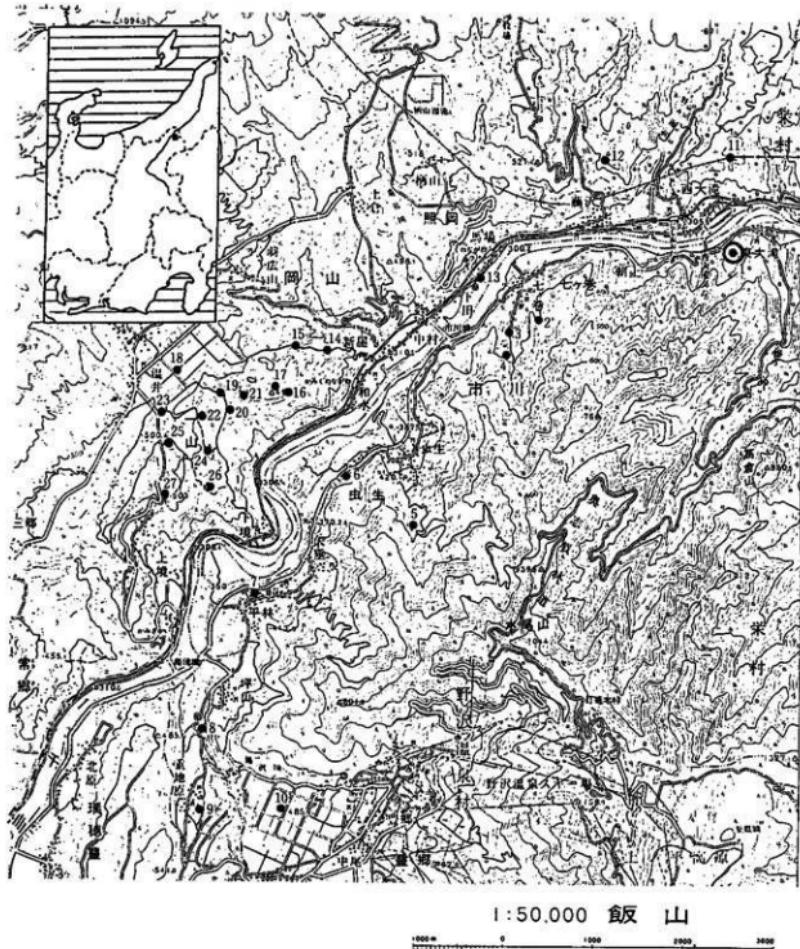
縄文前期については、村内では岡ノ峰遺跡だけである。飯山市側では、西大滝、藤沢下り尾、鳴沢頭、新堤の各遺跡があげられる。なお西大滝に近接して、鳥尾谷沢遺跡（下水内郡栄村白鳥）がある。この遺跡からは、南大原式土器とともに見事な块状耳飾が出土している。

縄文中期になると村内でも遺跡数が、増加する。岡峰、平林、七ヶ巻等10遺跡が確認されている。飯山市側では、向原、カツボ池、東原、鳴沢頭等の遺跡がある。

縄文後・晩期に入ると村内では岡峰遺跡がその代表であろう。2回の調査によって、多量の遺物とともに竪穴住居址が発見されている。また晩期の石棺墓群が発見されている。今回調査した蕨平遺跡も後・晩期の遺物とともに石棺墓や土壙墓と思われる遺構が多く発見された。飯山市側では、東原遺跡が古くから知られている。

弥生時代についてみると市川谷には、ついに弥生文化が波及しなかった。飯山盆地の北端が限界であった。恐らく当時の稻作技術では、自然環境の厳しい市川谷には適応できなかったのであろう。従って野沢温泉村には弥生文化の痕跡が認められないでのある。古墳時代についても同様で、飯山市瑞穂向原が北限で、野沢温泉村には今の所、古墳は1基も発見されていない。ただ、飯山市側では、弥生文化は認められないものの、古墳は岡山地区馬場に2基の古墳が認められている。

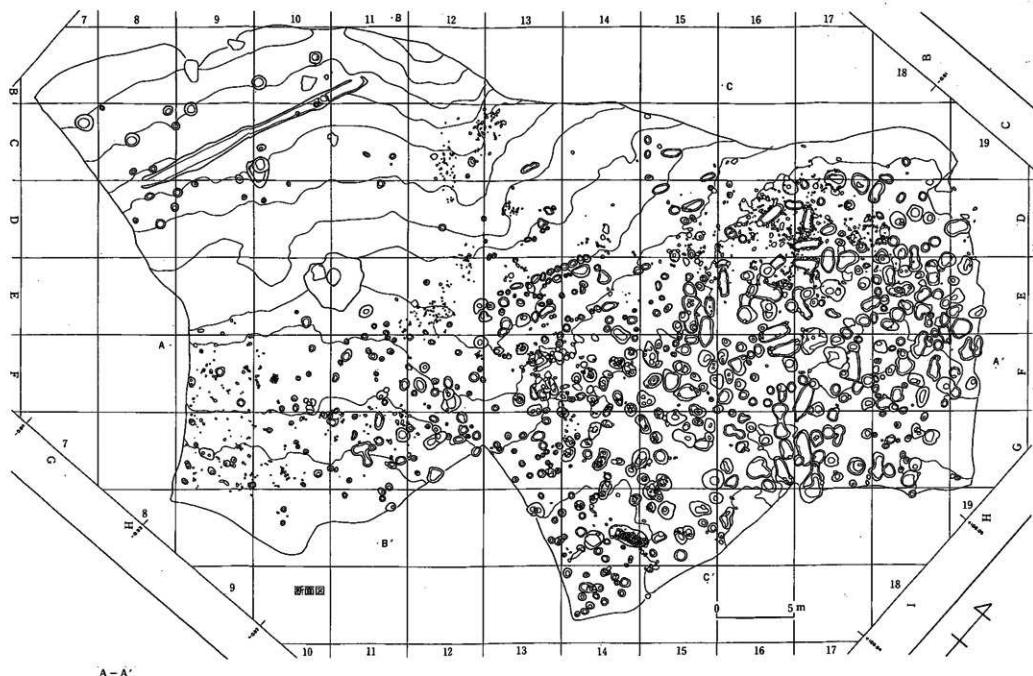
市川谷に再び開拓の鐵が、ふるわれるようになるのは、平安時代に入ってからである。野沢温泉村では、虫生A、前坂、平林、七ヶ巻の4遺跡が平安時代の遺跡である。飯山市側では、長者清水、カツボ池上、鳴沢頭、下境中塚谷地、トトノ池等の遺跡が知られている。中世に入ると野沢温泉村は、志久見郷内に組み込まれ、中野氏統いて市河氏の支配をうけるにいたるのである。



(野沢温泉村) 1. 厳平遺跡(縄) 2. 二座遺跡(縄) 3. 池ノ平遺跡(縄) 4. アサヒラ遺跡(縄)
 5. 虫生A遺跡(平) 6. 虫生B遺跡(縄) 7. 平林遺跡(縄) 8. 坪山遺跡(縄)
 9. 重地原遺跡(縄) 10. 向ノ峯遺跡(縄)

[飯山市] 11. 西大池遺跡(縄) 12. 下り尾遺跡(縄) 13. 東原遺跡(縄) 14. 所池遺跡(縄)
 15. 藤屋の堀遺跡(縄) 16. 休場遺跡(縄) 17. カササギ野地遺跡(縄・平)
 18. 長者清水遺跡(平・平) 19. カツボ池上遺跡(平) 20. 鳴沢頭I遺跡(縄・平)
 21. 鳴沢頭II遺跡(縄・平) 22. 新堤遺跡(縄) 23. 向原遺跡(縄) 24. 下坂大原(縄)
 25. 中谷谷地遺跡(平・平) 26. カツボ池遺跡(縄・平) 27. 上境遺跡(平)

第5図 調査地周辺の遺跡 (1 : 50,000)



第6図 調査地全体図

第3章 繩文時代の遺構と遺物

1 遺構

調査によって検出された主要遺構は、石棺墓、埋甕、石圓炉、焼土、土坑である。水田造成による地形変更により大きく破壊を受けており、検出された遺構も遺存状態は悪い。以下にその概要を述べる。

1) 石棺墓 (第8図)

今回の調査で石棺墓15基が検出された。その分布は、調査地北東側の北西から南東方向に約11m、幅約7mの範囲で13基、その内2基は重複している。また、そこから南東側へ7m離れて1基、南側へ14m離れた位置に敷石のあるものが1基検出された。石棺墓上面が水田床面とはほぼ同レベルであったため、水田造成の際、側壁石が抜き取られている例がほとんどであり、上部の構造は不明である。

1号石棺墓 D-17区に所在し、石棺墓群の最も北西側に位置する。側壁石は大きい自然礫と小礫から成り、17個残存し、敷石はなかった。長辺160cm、幅60cm、側壁の深さは30cmである。

2号石棺墓 1号址の西側2.5mに位置し、D-16区に所在。側壁石は自然礫8個残存し、敷石はなかった。長辺200cm、幅70cm、側壁の深さは24cmである。

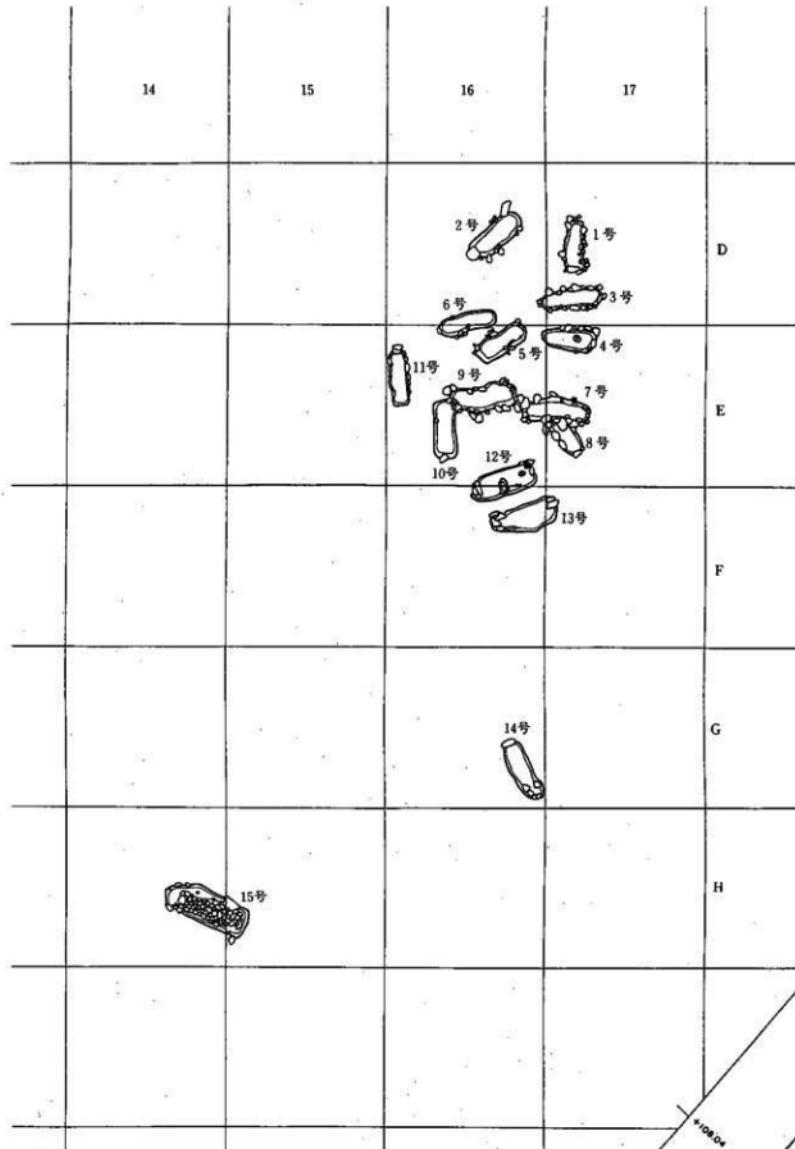
3号石棺墓 1号址のすぐ南東側に位置し、D-17区に所在。側壁石は大きい自然礫と小礫、平石から成り19個残存し、敷石はなかった。長辺186cm、幅55cm、側壁の深さは26cmである。少量の骨片出土している。

4号石棺墓 3号址の南東側へ50cm間をあけ、長軸はほぼ並行する。E-17区に所在。側壁石は自然礫8個残存し、敷石はなかった。推定長辺170cm、幅60cm、側壁の深さは21cmである。少量の骨片及び赤色土を検出した。

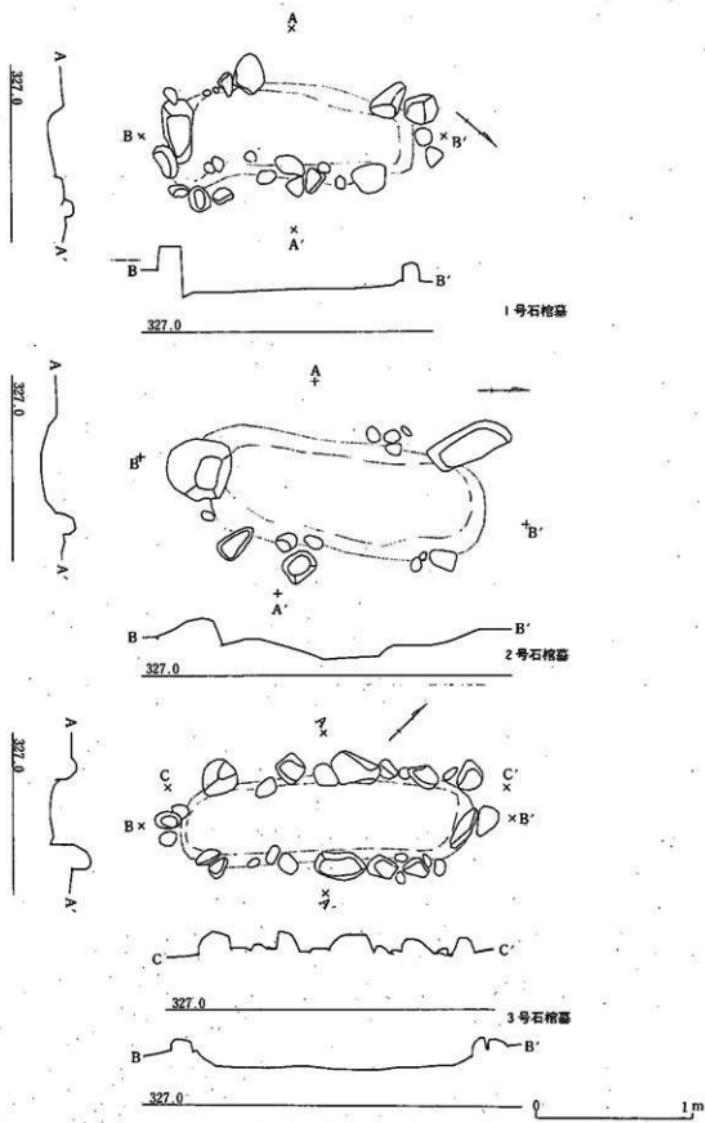
5号石棺墓 4号址のすぐ南西側に位置し、E-16区に所在。側壁石は自然礫12個残存し、敷石はなかった。推定長辺172cm、幅55cm、側壁の深さ21cmである。また、墓址内に直径97cm、深さ76cmの土坑が検出されたが、墓址との関係は不明である。

6号石棺墓 5号址西側に接し、D-E-16区に所在。側壁石は自然礫7個残存していたが破壊が著しい。敷石はなく、推定長辺は185cm位と思われる。幅50cm、側壁の深さは21cmである。

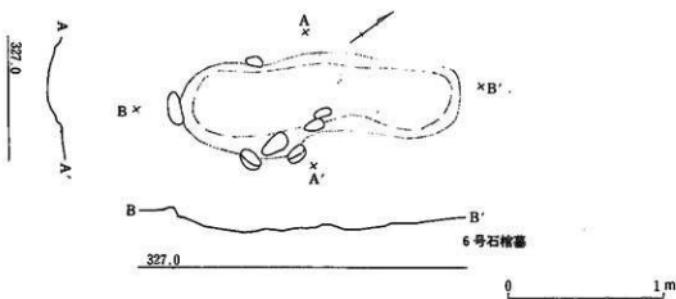
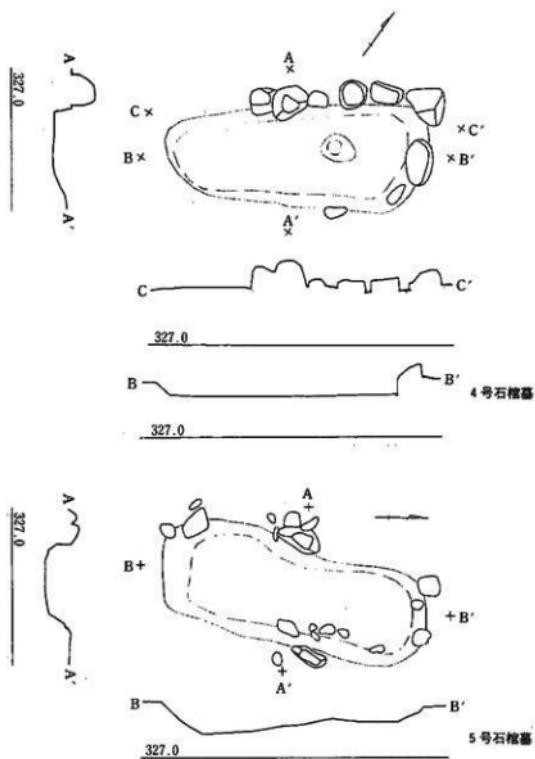
7号石棺墓 4号址の南東側約1.5mに位置し、E-16・17区に所在する。側壁石は自然礫15個残存し、敷石はなかった。復原長辺214cm、幅80cm、側壁の深さは43cmである。8号址の約半分を壊して造られている。



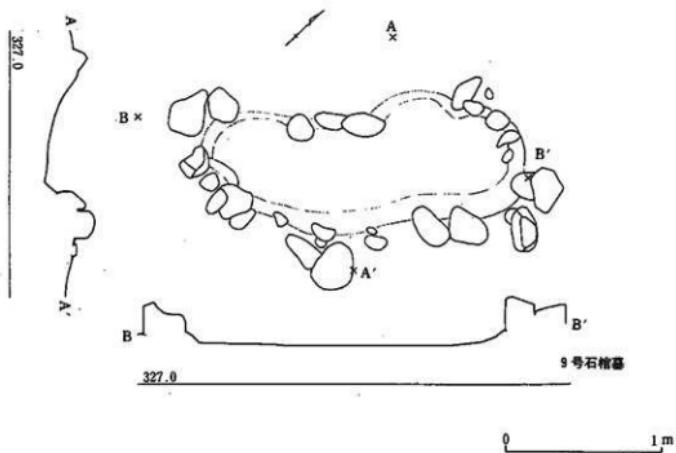
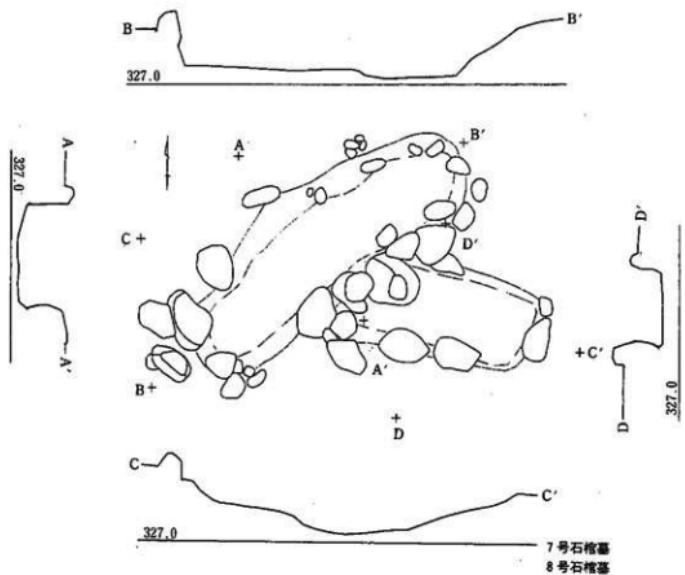
第7図 石棺墓分布図 (1 : 100)



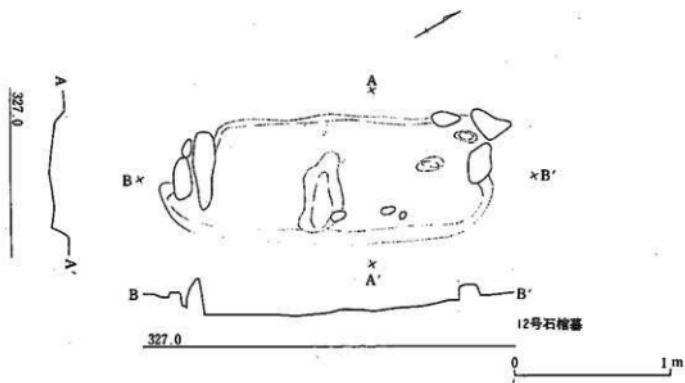
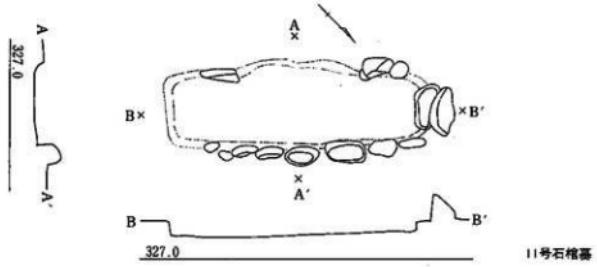
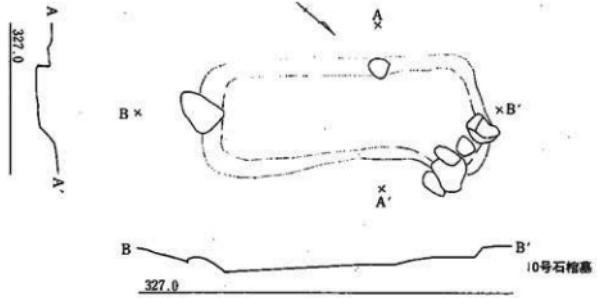
第8圖(I) 石棺墓実測図



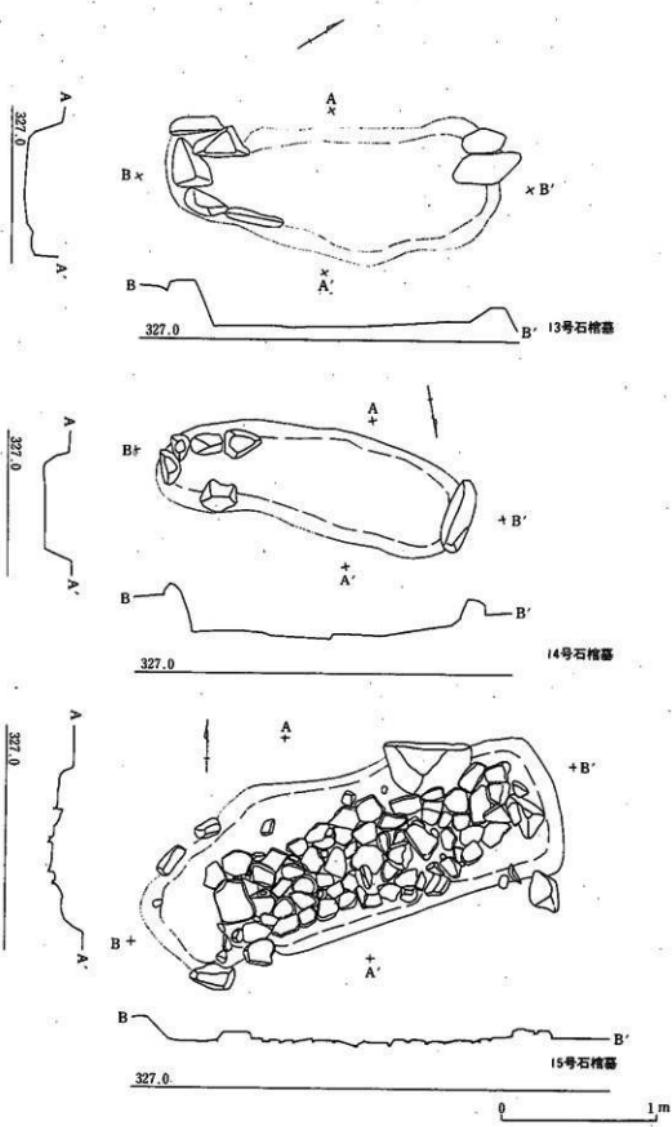
第8図(2) 石棺基実測図



第8图(3) 石棺墓实测图



第8图(4) 石棺墓实测图



第8图(5) 石棺墓实测图

8号石棺墓 7号址によって約半分が壊されている。E-17区に所在。側壁石は自然礫7個残存し、敷石はなかった。推定長辺200cm、幅57cm、側壁の深さは40cmであった。

9号石棺墓 7号址の南西側に接して位置し、E-16区に所在。側壁石は大小自然礫14個残存し、敷石はなかった。推定長辺210cm、幅76cm、側壁の深さ30cmである。墓址内に土坑があり骨片が出土している。

10号石棺墓 9号址の南東側に接して位置し、E-16区に所在。側壁石は自然礫4個残存し、敷石はなかった。推定長辺191cm、幅60cm、側壁の深さは17cmぐらいと推定される。石棺墓内に直径130cm、深さ50cmの土坑が検出された。

11号石棺墓 10号址の西側に平行に位置し、E-16区に所在。側壁石は自然礫12個残存し、敷石はなかった。推定長辺184cm、幅70cm、側壁の深さは24cmである。

12号石棺墓 9号址の南東側に2m離れ平行に位置し、E-F-16区所在。側壁石は自然礫5個残存し、敷石はなかった。推定長辺250cm、幅85cm、側壁の深さは22cmである。

頭部側壁石外側より、土器のかたまり出土。付近より模様が有る耳飾りと模様が無い耳飾りが出土している。

13号石棺墓 12号址の南東側に50cm離れ平行に位置し、F-16区に所在。側壁石は自然礫・平石が7個残存し、敷石はなかった。推定長辺212cm、幅84cm、側壁の深さは32cmであった。

14号石棺墓 13号址の南東側に6m離れて位置し、G-16区に所在。側壁石は自然礫6個残存し、敷石はなかった。推定長辺205cm、幅65cm、側壁の深さは32cmであった。

墓址内から小形磨製石斧、骨片、炭が検出された。

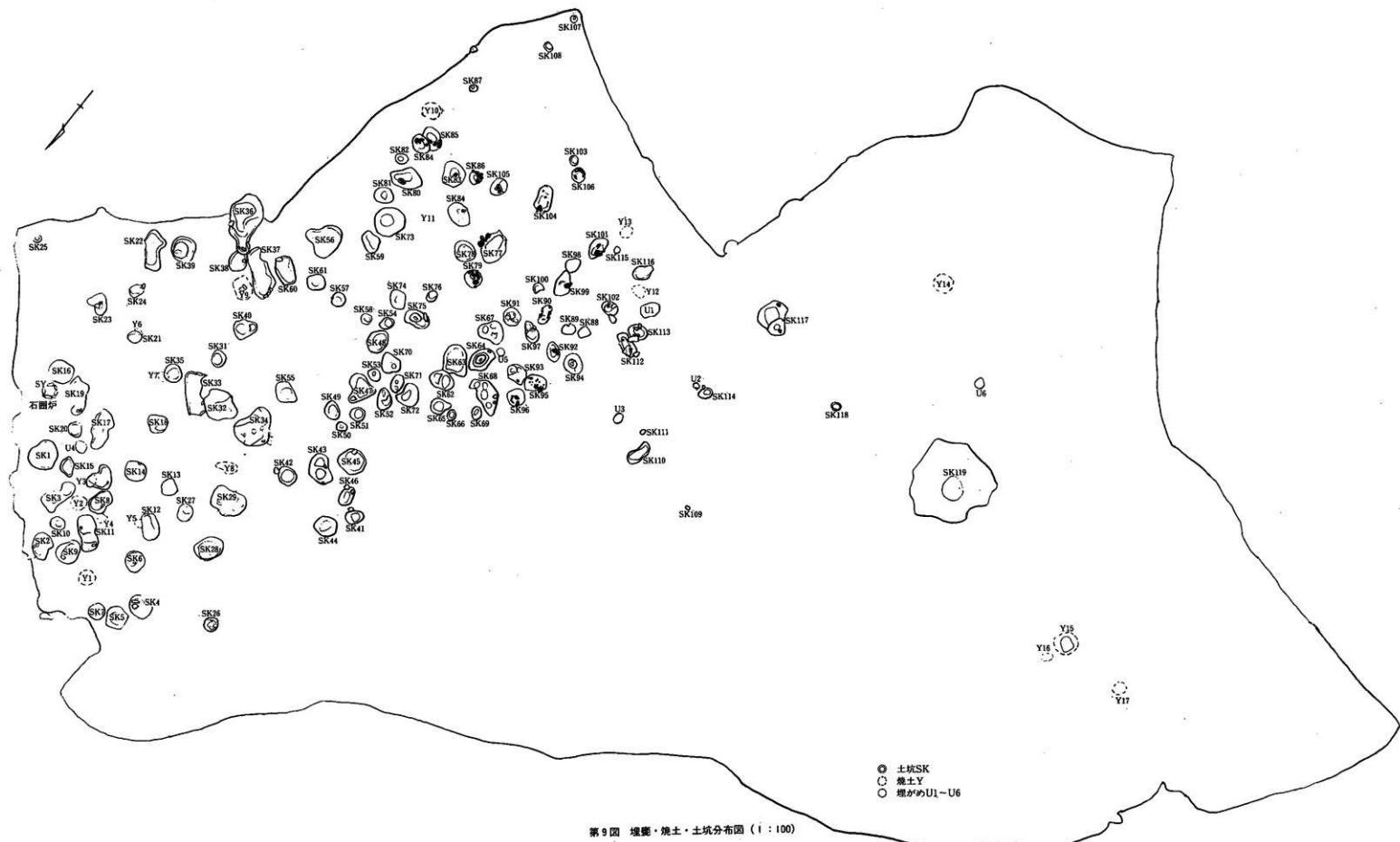
15号石棺墓 14号址の南西側10m離れて位置し、H-14-15区に所在。側壁石は5個残存し、敷石は73個。推定長辺260cm、幅90cm、側壁の深さは50cmである。

唯一敷石があり、他の墓址群と離れている。炭が多数出土している。

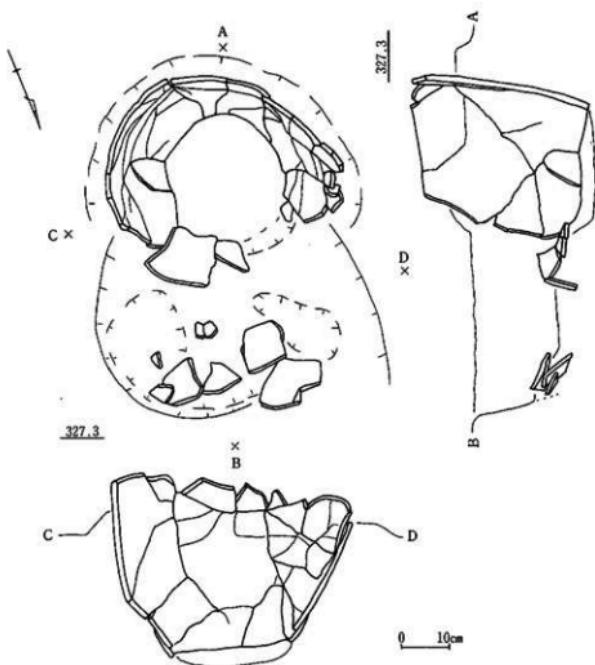
2) 墓 瓢 (第10図)

今回の調査によって発見された埋甕は、一般的な屋内の入口部に設置された埋甕ではなく、屋外で単独に検出されたものである。総数6基検出されている。いずれも葬棺と考えて良いと思われるが、人骨等は検出されていない。

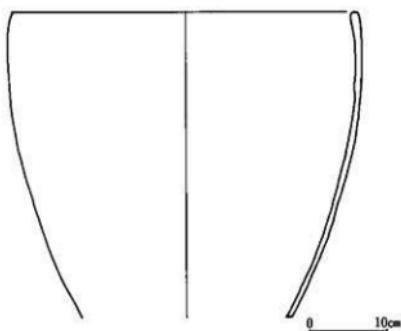
1号埋甕 F-13区、付近にあった石垣を除去作業中に検出された。口縁部直径50cm、器高40cm程の甕で、全体にひび割れおり、約3分の1が崩れた形であった。底部はなく、内部より楕円状で、中央部に小孔をもつヒスイの小玉が出土した。覆り方は、北側が石垣積みによって破壊されており明確でない。



第9図 墓場・焼土・土坑分布図 (1 : 100)

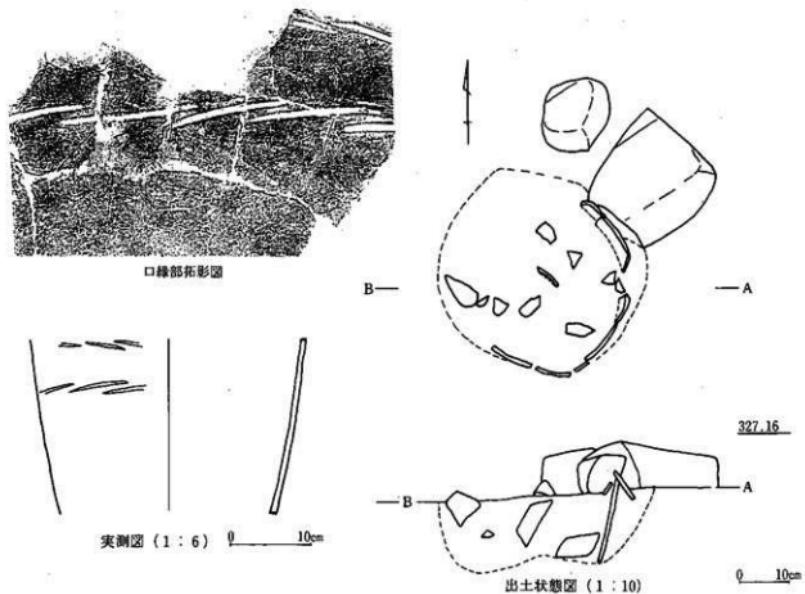


出土状態図 (1 : 10)



実測図 (1 : 6)

第10図(1) 1号埋甌



第10図(2) 2号埋壺

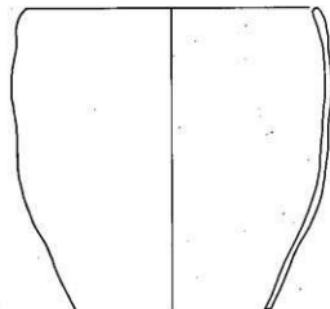
2号埋壺 F-13区、1号埋壺より西北西側へ4mの位置で検出された。縦に2分の1程存在し、胴部下位から底部はきれいに除去されている。内部より小礫が出土した。口縁部直径約36cm、器高約30cm程と思われる。

3号埋壺 F-13区、1号埋壺より北北西側へ5mの位置で検出された。一部原形はとどめていたが、内部に破片が幾重にも重なり合っており、別種の土器片も出土した。口縁部直径約37cm、器高約43cm程で底部はなかった。

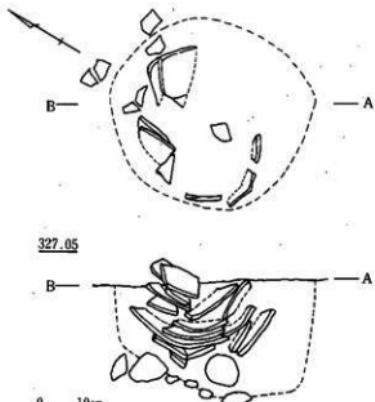
4号埋壺 E-18区、1号埋壺より北東側へ26mの位置で検出された。口縁部は欠損しており、全体がひび割れていた。内部より別種の土器片も出土した。口縁部直径約35cm、器高約25cm程であった。掘り方は、径42cmのは円形で、深さは32cm、すり鉢状の断面を呈す。

5号埋壺 F-14区、1号埋壺より北東側へ7mの位置で20cm×15cmと横につぶれた形で検出された。口縁部は欠損しており、全体がひび割れ、底部はなかった。胴部のみの出土であるが、直径約35cm、器高約25cm程の深鉢と思われる。内部からの出土遺物はなかった。

6号埋壺 F-10区、1号埋壺より南西側へ15mの位置で検出された。口縁部がわずか欠損しており、胴部が押し潰されて割れていたが、ほぼ完形であった。口縁部直径36cm、深さ37cm。検出された埋壺の中で最も薄く、文様もある。内部からの出土遺物はなかった。

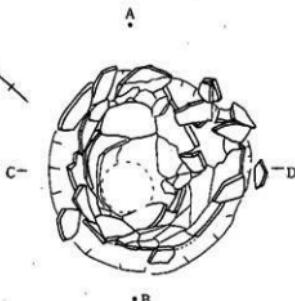


埋甕実測図 (1 : 6) 0 10cm

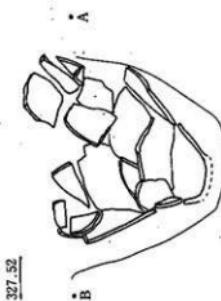


出土状態図 (1 : 10)

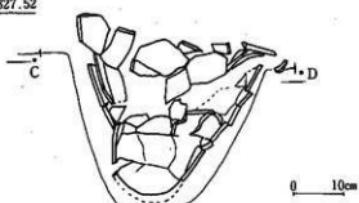
第10図(3) 3号埋甕



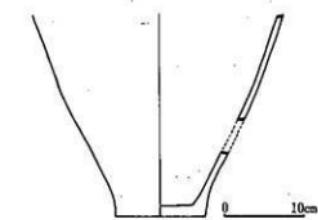
327.52



327.52

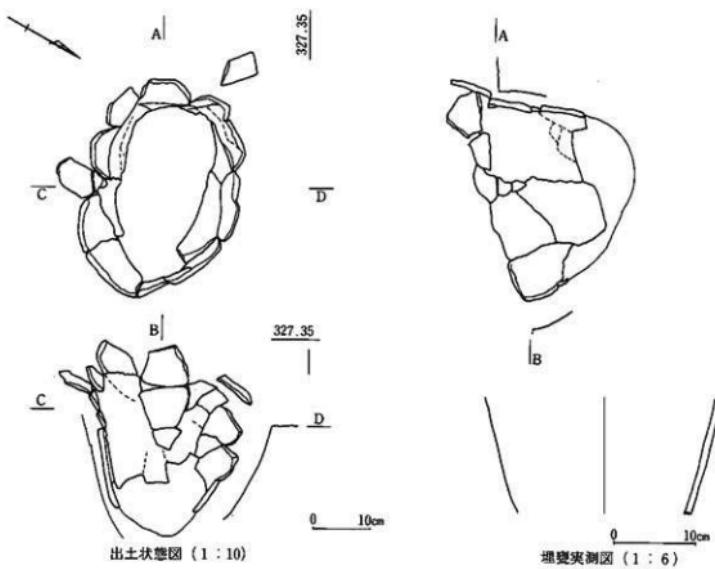


出土状態図 (1 : 10)

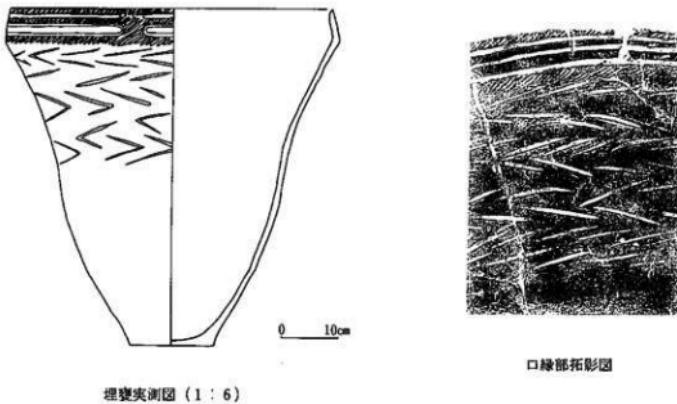


埋甕実測図 (1 : 6)

第10図(4) 4号埋甕



第10図(5) 5号埋甕



第10図(6) 6号埋甕

3) 石圓炉 (第11図)

唯一圓み石のある焼土遺構で、F-19区で検出された。焼土の色はうすく、圓み石に微かな焼け跡が残っている。石7個で構成されており、直径56cm、焼土の厚さ5cmである。炉の中からの出土遺物はなかった。住居址の炉と考えられるが、プランを把握できなかつたため、本稿では石圓炉として単独で報告することにした。

4) 焼土 (第12図)

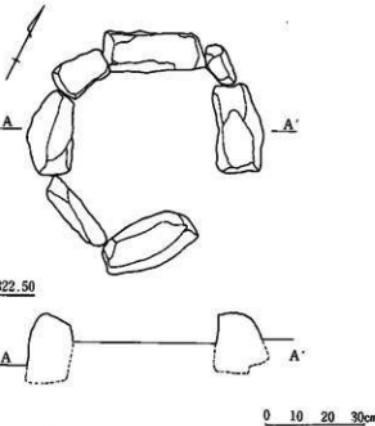
調査地内で、18カ所の焼土遺構が検出された。北東部D-G-17・18区に11カ所、H-15区に2カ所、G-13区に2カ所、G-11区に1カ所、C-9・10に3カ所である。いずれも、炉跡として確認することができなかつた。

Y-1 D-18区に所在、焼土直径68cm、厚さ5cm。

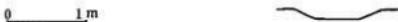
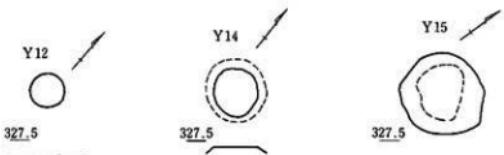
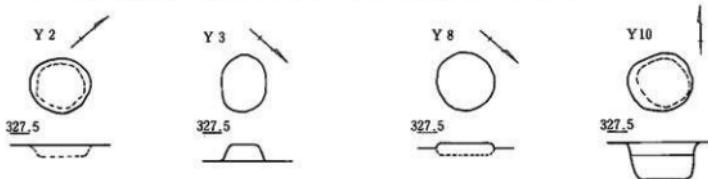
Y-2 E-18区に所在、焼土の直径65cm、厚さ10cm。中から炭化くるみ、木炭、土器片13個が出土した(図示)。

Y-3 E-18区に所在、焼土の直径60cm、厚さ13cm。中から骨片、木炭、土器片17個が出土した(図示)。

Y-4 E-18区に所在、焼土の直径60cm、厚さ10cm。中から炭化くるみが出土した。



第11図 石圓炉実測図 (I : 15)

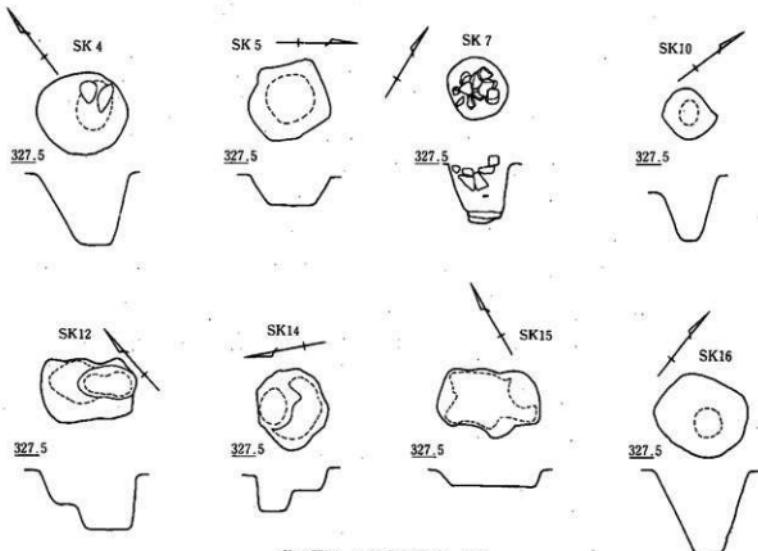


第12図 焼土実測図 (I : 60)

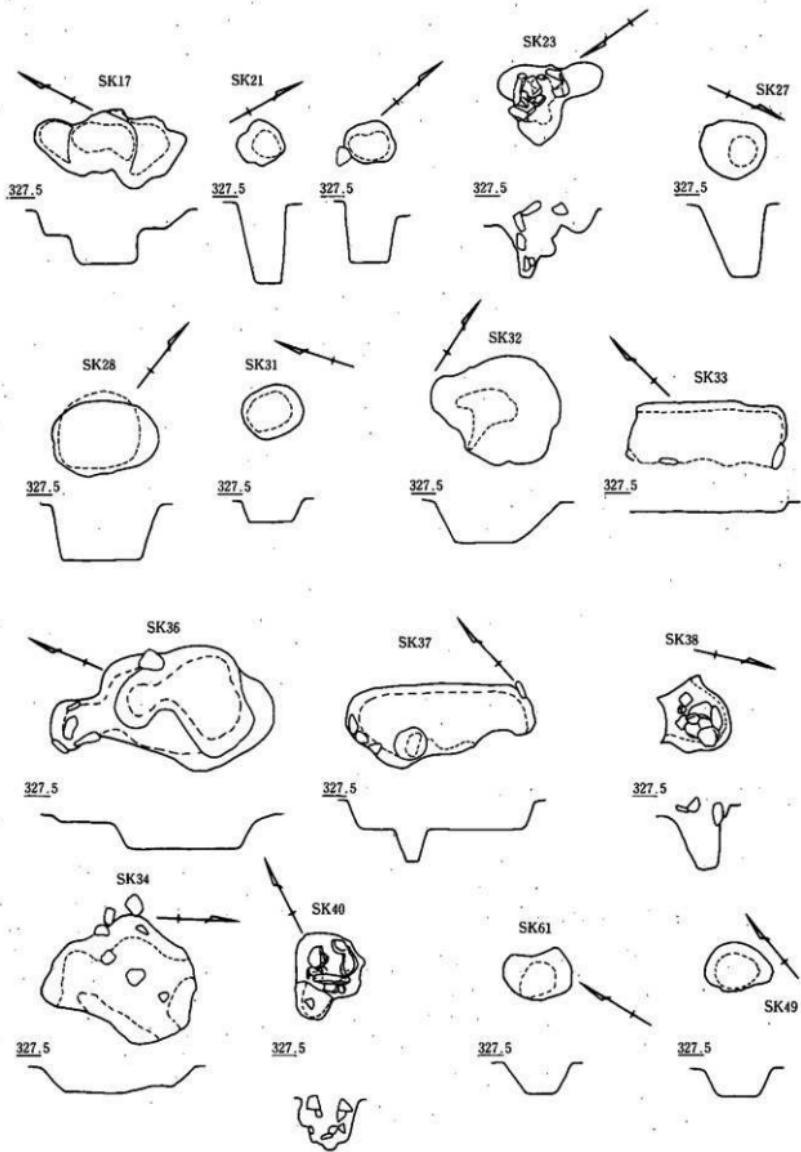
- Y-5 E-18区に所在、焼土の直径50cm、厚さ5cm。
 Y-6 F-18区に所在、焼土の直径50cm、厚さ5cm。中から多くの骨片、木炭も出土した。
 Y-7 F-18区に所在、焼土の直径45cm、厚さ5cm。
 Y-8 E-17区に所在、焼土の直径70cm、厚さ5~6cm(図示)。
 Y-9 G-17区に所在、長辺105cm、短辺80cm、黒土混じり、底に平石が検出されたが、焼け跡はなかった。
 Y-10 H-15区に所在、焼土の直径80cm、厚さ15cm。中から骨片、木炭が出土した(図示)。
 Y-11 H-15区に所在、焼土の直径50cm、厚さ5~6cm。
 Y-12 G-15区に所在、焼土の直径40cm、厚さ5~6cm。黒色土が混ざっていた(図示)。
 Y-13 G-13区に所在、焼土の直径60cm、厚さ5~6cm。
 Y-14 G-11区に所在、焼土の直径65cm、厚さ5~7cm(図示)。
 Y-15 C-10区に所在、焼土の直径115cm、厚さ5~6cm(図示)。
 Y-16 C-10区に所在、焼土の直径50cm、厚さ5cm。
 Y-17 C-9区に所在、焼土の直径32cm、厚さ5cm。

5) 土 坑

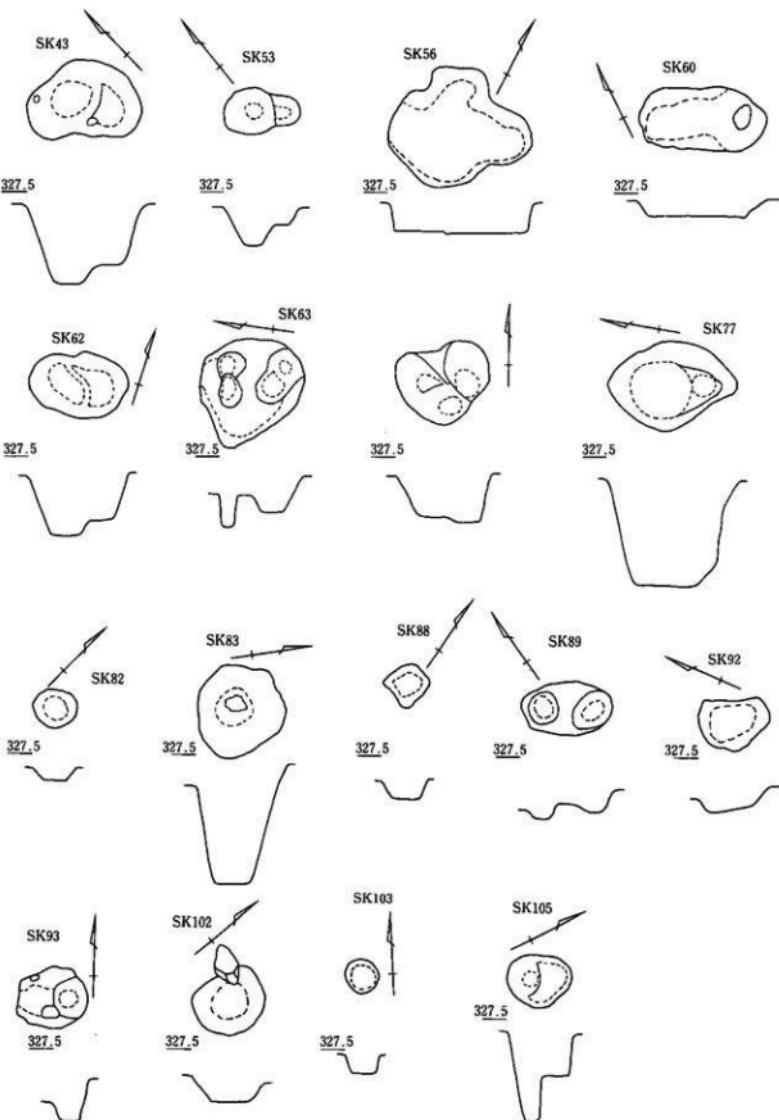
今回の調査では、土坑が数多く検出されている。その形状は複雑で、多岐にわたっている。その分布は調査地全域で検出され、特に、北東側のものは、複数の土坑が重なりあっていた。ほとんどの土坑から多くの土器片が出土、また、30箇所以上の土坑から骨片が検出された。その性格は、いずれも確認することができなかつたため、ここでは、出土物の多い主な土坑について、取り上げることとした。



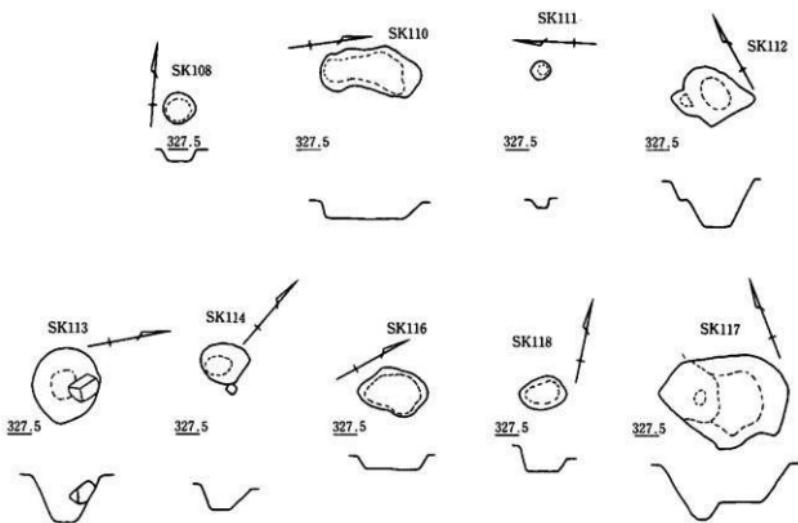
第13図(I) 土坑実測図 (1 : 60)



第13図(2) 土坑実測図 (1 : 60)



第13図(3) 土坑実測図 (1 : 60)



第13図(4) 土坑実測図 (1 : 60)

表 I 土坑一覧表

番号	グリット	長径cm	短径cm	深さcm	色	備考
SK1	E-19P1	136	126	37		集石 炭混じり スクレイパー
SK2	E-19P4	120	63	109	暗褐色	
SK3	E-19P5	162	46	83-117	暗褐色	
SK4	D-18P4	112	103	98	暗褐色	土器 石器
SK5	D-18P5	105	92	36	暗褐色	骨片 炭 中程2~3cm焼土
SK6	D-18P9	135	72	104-83		黒曜石原石多数 石器
SK7	D-18P11	φ75		70	暗褐色	集石
SK8	E-18P2	120	62	95-52		骨片
SK9	E-18P3	φ100		73-117		
SK10	E-18P4	φ55		76		石棒 耳飾り 石器
SK11	E-18P5	157	60	16-95-41		凹石 2打製石斧
SK12	E-18P8	120	67	41-77		骨片 土器のかたまり
SK13	E-18P10	φ65		22		凹石 耳飾り
SK14	E-18P11	φ95		53-29		骨片
SK15	E-18P12	115	65	19		磨石
SK16	F-18P1	φ100		95		土器 骨片 炭
SK17	F-18P2	190	62	30-80	黒褐色	炭混じり 土器のかたまり
SK18	F-18P4	φ90		80		炭 焼石
SK19	F-18P7	150	40	42		骨片
SK20	F-18P11	φ63		56	暗褐色	炭混じり 精料
SK21	F-18P12	φ60		98		骨片 焼土1
SK22	G-18P3	175	55	43	暗褐色	黒土混じり 土器のかたまり
SK23	G-18P10	95	45	60		集石
SK24	G-18P11	65	50	81	暗褐色	石器 焼土 炭
SK25	H-18P1	φ40		15		土器
SK26	D-17P3	φ60		43		集石
SK27	E-17P4	φ70		75		轆石
SK28	E-17P6	140	90	68	暗褐色	一部焼土 炭 暗褐色 じょうたん型
SK29	E-17P9	170	106	80		
SK30	E-17P12	94	72	83		
SK31	F-17P4	φ70		29		焼土 炭
SK32	F-17P7	φ135		50		骨片 石槍
SK33	F-17P11	185	65	10	暗褐色	骨片 炭
SK34	F-17P12	φ185		32	淡暗褐色	炭
SK35	F-17P13	φ88		71		F-18焼土2と重なり合う
SK36	G-17P1	270	114	27-60		磨製石斧2 骨片
SK37	G-17P2	232	90	35		骨片
SK38	G-17P3	φ80		82		集石 骨片
SK39	G-17P7	φ115		84		骨片

S K40	G-17P10	107	50	44-84		集石 骨片
S K41	E-16P 1	82	55	84		集石 石錐
S K42	E-16P 3	Φ80		70		
S K43	E-16P 4	143	92	70-84		浅い方に掌大の石がひきつめられていた
S K44	E-16P 5	Φ97		76		集石 7号石棺墓内
S K45	E-16P 6	Φ130		50		集石
S K46	E-16P 7	96	57	80		石棺墓 6 内
S K47	F-16P 4	130	115	12-26	明暗褐色	炭混じり
S K48	F-16P 5	108	85	71		集石
S K49	F-16P 6	Φ63		37	暗褐色	骨片 炭
S K50	F-16P 7	Φ44		56	暗褐色	集石 骨片
S K51	F-16P 8	Φ62		33		集石
S K52	F-16P 9	100	56	67-45		小形土器
S K53	F-16P10	Φ60		50	暗褐色	炭片 大 土器
S K54	F-16P 5'	Φ50		81		集石
S K55	F-16P13	110	80	83		14号石棺墓内
S K56	G-16P 2	Φ156		19		凹石
S K57	G-16P 3	Φ60		53		集石
S K58	G-16P 7	Φ45		58		集石 石錐
S K59	G-16P 9	92	70	77		骨片 炭片 大
S K60	G-16P10	160	72	20	暗褐色	骨片 炭 石錐
S K61	G-16P12	85	57	37		ドリル 骨片
S K62	F-15P 1	123	81	62-81	暗褐色	炭
S K63	F-15P 2	Φ115		110-20	暗褐色	炭多し 骨片
S K64	F-15P 3	130	90	88	暗褐色	集石
S K65	F-15P 5	Φ80		41	暗褐色	集石 骨片 炭 一部焼土
S K66	F-15P 6	Φ37		53	暗褐色	集石
S K67	F-15P 7	117	90	97	暗褐色	骨片 炭
S K68	F-15P 8	167	87	60-42		集石 骨片 炭
S K69	F-15P10	Φ55		40		集石 石錐
S K70	F-15P13	102	70	71		
S K71	F-15P14	80	56	81		
S K72	F-15P15	103	88	76		
S K73	G-15P 1	Φ130		125		集石
S K74	G-15P 2	100	70	24		軽石
S K75	G-15P 4	110	65	87		
S K76	G-15P 5'	160	63	50		
S K77	G-15P 6	140	108	96-125		石錐
S K78	G-15P 7	Φ90		90	暗褐色	骨片 炭 磨石 磨製石斧 土器
S K79	G-15P11	Φ73		85		集石
S K80	H-15P 3	130	75	80		

S K81	H-15P 4	95	65	90		
S K82	H-15P 6	φ50		13		磨石
S K83	H-15P 7	φ110		147		敲石 土器
S K84	H-15P 8	115	83	103		集石
S K85	H-15P 9	φ82		80		集石
S K86	H-15P 10	77	60	96		集石
S K87	I-15P 1	φ35		35	暗褐色	石槍
S K88	F-14P 2	φ45		21	暗褐色	骨片
S K89	F-14P 3	105	70	40	暗褐色	炭
S K90	F-14P 4	80	45	70	濃暗褐色	集石
S K91	F-14P 5	φ70		118	暗褐色	集石
S K92	F-14P 6	90	55	35	暗褐色	炭
S K93	F-14P 8	90	70	65-40	暗褐色	土器
S K94	F-14P 9	135	90	94	暗褐色	集石 炭少々
S K95	F-14P 10	123	90	92	暗褐色	集石 骨片 炭 土器
S K96	F-14P 12	φ88		67		集石
S K97	F-14P 5'	φ55		41		集石
S K98	G-14P 3	φ55		64		集石
S K99	G-14P 4	110	70	20	暗褐色	集石
S K100	G-14P 6	70	42	14	黑褐色	骨片 炭
S K101	G-14P 8	130	90	56	集石	
S K102	G-14P 9	95	70	93	黑褐色	スクレイパー
S K103	H-14P 6	67	45	42		石錐
S K104	H-14P 8	112	60	50	暗褐色	磨製石斧 暗褐色黄泥じり
S K105	H-14P 9	82	64	30-114	暗褐色	骨片 石錐
S K106	H-14P 10	φ65		76		集石
S K107	I-14P 1	φ30		40		石錐
S K108	I-14P 7	φ20		14	暗褐色	炭
S K109	E-13P 1	φ20		3	黑褐色	磨製石斧
S K110	E-13P 2	120	45	10	暗褐色	炭
S K111	E-13P 14	φ23		12	黑褐色	骨片
S K112	F-13P 1	φ70		34	暗褐色	炭
S K113	F-13P 2	φ85		58	暗褐色	炭
S K114	F-13P 5	φ60		22	暗褐色	スクレイバー
S K115	F-13P 8	φ24		28	黑褐色	スクレイバー
S K116	F-13P 13	80	54	18	暗褐色	尖頭器
S K117	F-12P 1	158	110	48	暗褐色	骨片 炭 大きな土器片
S K118	F-12P 8	φ40		27	濃暗褐色	石錐
S K119	E-11P 1	φ380		71	濃暗褐色	凹石 土器取手 尖頭器2 耳飾り

2 石 器

今回の調査で発見された石器は、打製石斧・スクレイバー・石鎌・石錐・尖頭器・磨製石斧・磨製石器・石棒・石刀・石剣・くばみ石・磨石・石皿など多種多様な道具が出土している。また、製作に伴う剥片類を含めれば10kg以上の重量になる。本稿では時間的な都合もあり、二次加工の施された石器で、そのうちの器種の概要がわかる範囲の図化にとどめている。以下に器種別に説明を加える。

1) 打製石斧 (1~6)

打製石斧は総数7点出土しており、そのすべてを掲載した。

1は、全長32.4cmを測る大型品で、石鎌とも呼べるものである。基部側と先端部を観察する限り打製石斧を意図して製作したものと考えられる。大きな平石を素材とし、急斜面加工を施して縁辺をつくっている。裏面は平坦な自然面そのままとしている。刃部は大きな剝離で鈍角となっている。2も平石を素材とした礫石器である。表裏両面に自然面を残す。形態は短冊型である。3は裏面側を平坦な加工を施しており、1・2と同様に片刃状に仕上げている。刃部は鋭い。4・5は微細な加工を施して短冊型に仕上げている。4は中程より欠損している。6は、節理面で剝離した剥片を素材としており、非常に薄い。縁辺に二次加工を施して打製石斧に仕上げている。

2) スクレイバー (7~13)

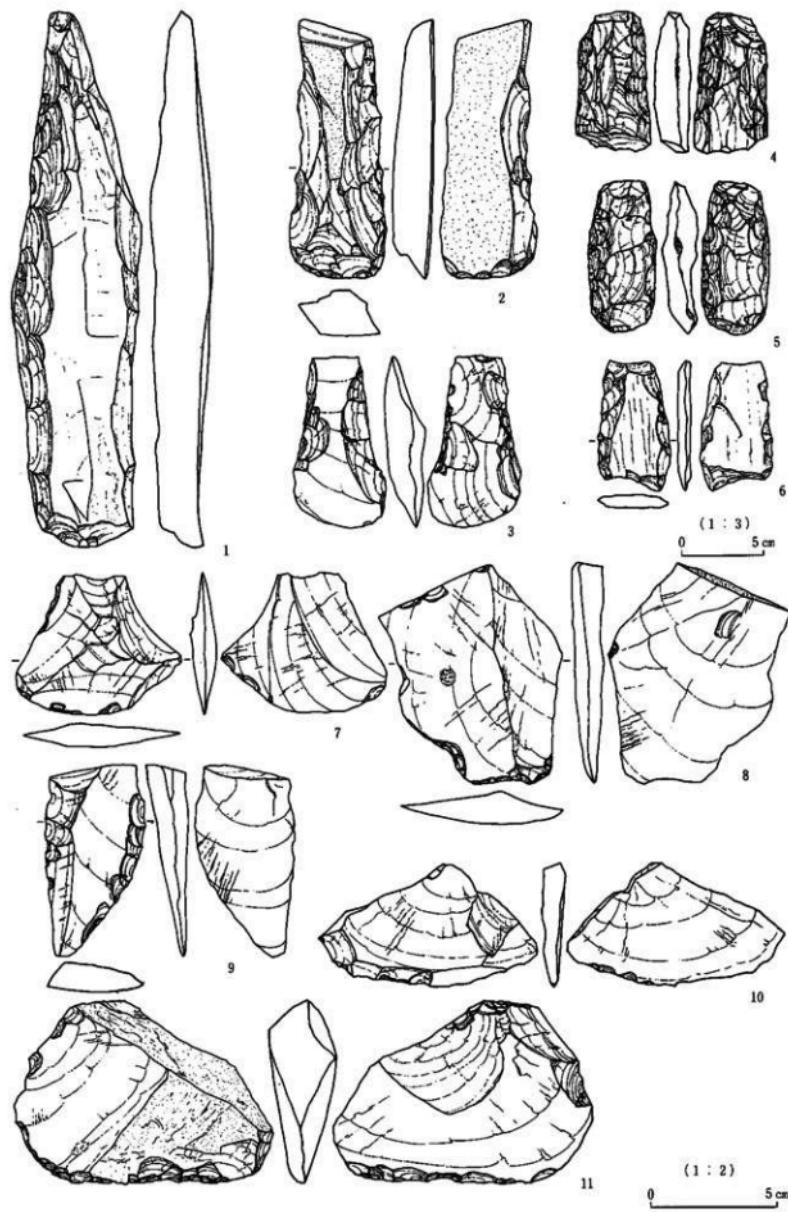
剥片の縁辺に二次加工を施して刃部を作出したもので、不定型なものが多い。明確に二次加工が認められたものは図示した7点であるが、多量の剥片が出土しており、スクレイバーの機能をもった石器はもっと多いものと考えられる。

7は、明確な二次加工ではないが、刃部と思われる下端部に不規則な剝離を施している。8は幅広な綫長の剥片を素材とし、先端部から左側縁にかけて二次加工が施される。刃部の一部はノッチ状を呈している。9は先端部が尖頭状のまま二次加工を施さずに、兩縁辺に比較的大きな二次加工を施して刃部としている。10は横長剥片を素材とし、幅広な先端部に簡単な二次加工を施している。11は大きな角礫から作出された不定型な剥片の下端部表裏面に微細な二次加工を施して刃部としている。12は11と同様に横長不定型な剥片を素材とし、下端部に簡単な二次加工が施される。13は欠損するが、本来完形品であるかもしれない。そうであれば三角形を呈する石匙様の形態となる。

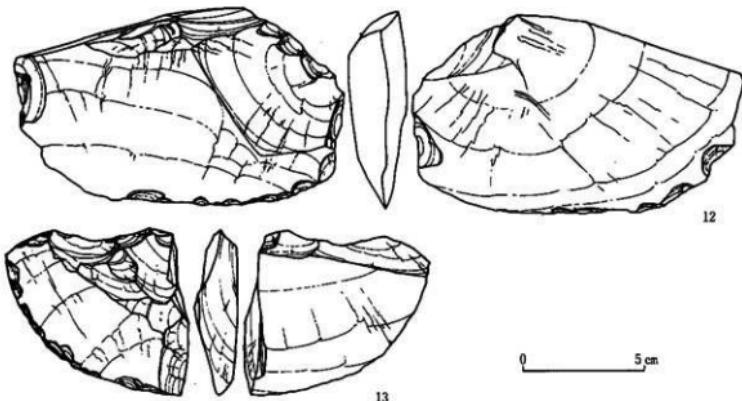
3) 尖頭器 (14~28)

総数15点出土し、すべてを図示した。大きさによっていくつかのグループがある。中には石鎌の未製品かと思われるような小型のものもあるが、細部の加工や形態からすべて尖頭器として報告する。

14は旧石器時代後半の木葉形尖頭器に酷似している。基部側を欠損しているが、表裏面とも平坦な加工で薄く仕上げている。15・16は未製品とも考えられ、形態は悪いが細部加工も施されている部位も認められる。17は中型の柳葉形に近い細身の形態を呈している。18~20は17と同様に中型の尖頭器で、欠損しているが柳葉形の形態を呈するものであろう。21~26は5cm前後のややすんぐりした形態を呈するものである。いずれも尖頭器の形状としては不細工である。22は基部側にわずかな二次加工が認められるのみであるが、裏面には丁寧に二次加工が施されている。24は正面側には自然面を残しているが、裏面には丁寧な二次加工が施され、全体としては整った



第14図(I) 石器実測図 (1:3, 1:2)



第14図(2) 石器実測図 (1 : 2)

尖頭器状に仕上げている。27・28は細身の柳葉形を呈している。

以上、器種としては尖頭器として一括されるが、形態に大きな相違が認められることから、機能的には石槍はか多少異種の用途も考慮されなければならないだろう。本遺跡では比較的大型の一群、中型の一群、細身の尖頭器に三分類され、それぞれの目的(対象物)に相違があるものと考えたい。ただし、数量的に少なく、他のデーターもないことから予想するにとどめておく。

4) 石鎌 (29~40)

石鎌は総数64点発見された。特異な状況で出土したものはないが、柱穴等の遺構より検出されたものは多い。石鎌は有茎・無茎に分類されるが、このほかに細身のドリル様の形態も若干存在している。図示したものはそのうちの有茎・無茎の石鎌12点である。

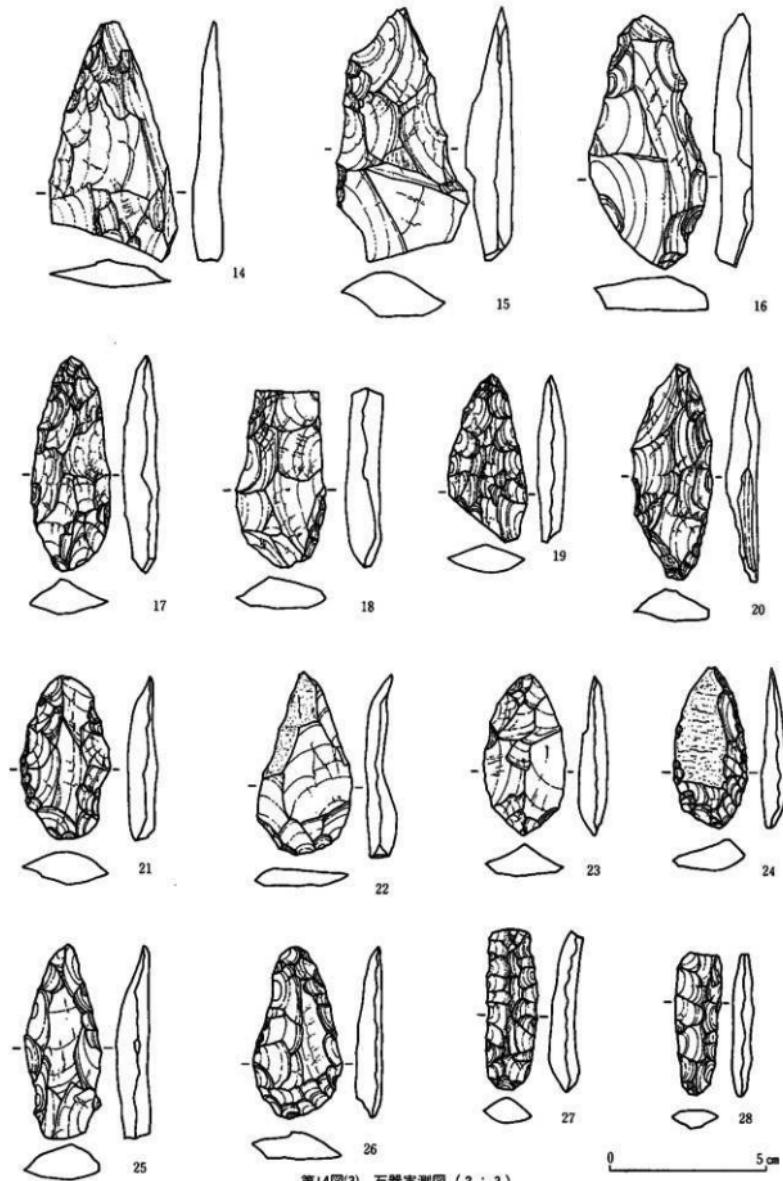
29~33は有茎石鎌であるが、いずれもかえりの部分が明確でない凸基状の形態を呈す。また、無茎石鎌に比べてラフなつくりで、二次加工が全面を覆うことも多い。34~40は無茎の石鎌である。概して丁寧なつくりである。図示したものは34・37がチャート、35が黒曜石、38が頁岩で他は安山岩である。総体でも安山岩で90%以上を占め、わずかに黒曜石やチャート製が存在している。

5) ドリル (41~55)

ドリルも合計30点と多く出土している。ここでは、そのうち15点について説明を加える。

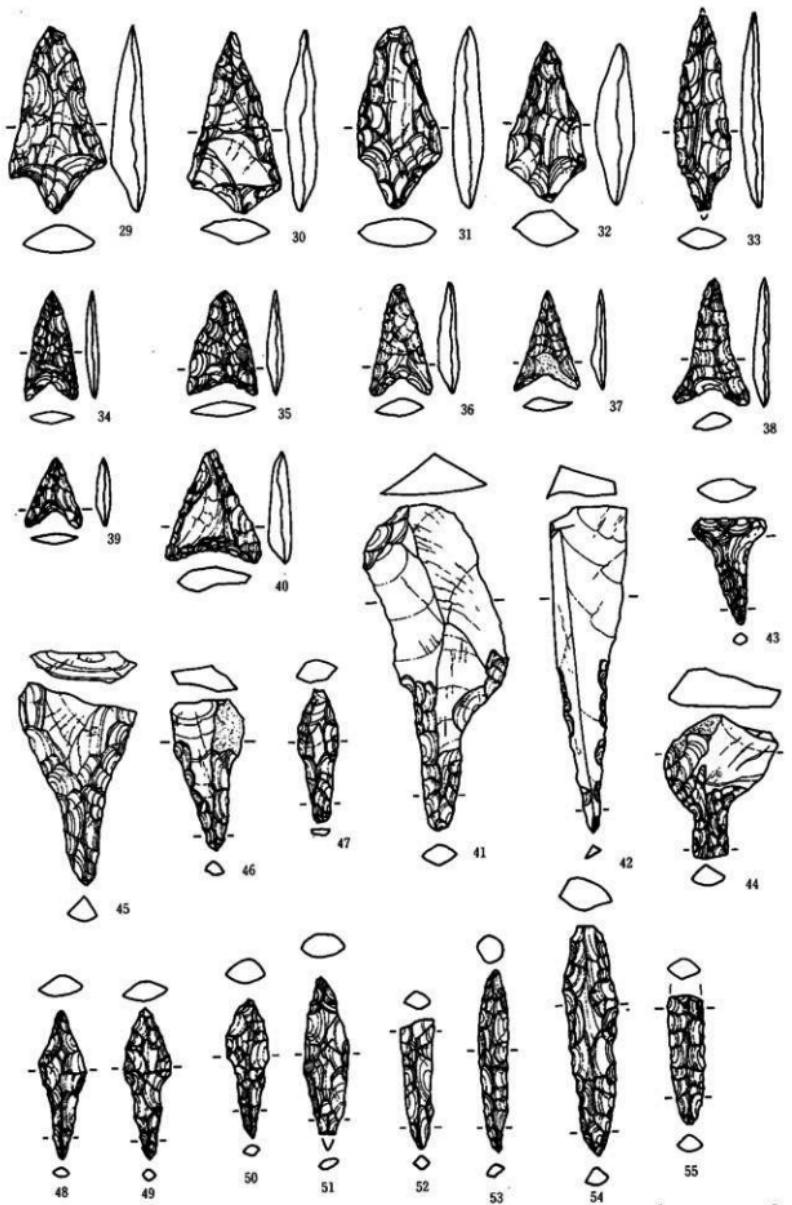
形態からは刃部のほかに摘み部を持つもの(43)、洞部上半に最大幅をもち両端部が尖頭部を呈し凸基状石鎌に類似するもの(47~51)、棒状の精巧なもの(52~55)に大きく分類される。

また、41・42・44~46は基部側をほとんど加工せずに結果として摘み部となっており、43と同分類としてよいかもしだれない。なお、石鎌に類似する類も、横断面が菱形や丸い棒状を呈しており明らかに石鎌とは区別される。石質は43のみ頁岩系統と思われる以外すべて安山岩である。



第14图(3) 石器实测图 (2 : 3)

0 5 cm



第14图(4) 石器实测图 (4 : 5)

0 5 cm

6) 磨製石斧 (56~72)

磨製石斧は总数17点出土し、全て図示した。その内訳は、完形品1点(58)・ほぼ完形品3点(59・60・61)・基部のみ2点(62・63)・基部から胴部4点(64~67)・胴部のみ2点(68・69)・胴部から刃部4点(70~73)・刃部のみ1点(74)である。推定全長13cmぐらいのもの5点、10cmぐらいのもの7点、8cmぐらいのもの4点、また、6cmぐらいのもの1点である。67は蛇紋岩製の小形磨製石斧で刃部が欠損している。全体はよく磨かれており、15号石棺墓内より出土した。

7) 玉類 (73・74)

73は、半椭円球で、中央に小孔をもつ。孔は、平面側直径が6mm、球面側直径が2mmである。石質はヒスイ。1号埋甕内より出土した。

74は、12-G区、土偶出土位置付近より検出された。中央よりやや上側に直径7mmの孔をもつ。色調は、黄褐色で全体が丁寧に磨かれている。

8) 石刀 (75)

15-G区精査中に2つに折れた状態で検出された。刃から鉢の部分が欠損している。身の形状は、全形が不明のためはっきりしないが、内反り刃と思われる。刃闊が明晰に作られ、柄は約7.5cm、柄頭は約4.2cmを測る。柄頭には沈刻による幾何学的文様が施され、彫刻内にはペニガラ様の赤色顔料が残っている。

9) 石劍 (76)

11-F区精査中に検出された。先端部で長さ14cm、基部は欠損しており、両側に刃がある。黒色の粘板岩で丁寧に磨かれている。

10) 石棒 (77~81)

77は胴部の破片で全体の形は不明である。緑色に白の斑点入った千枚岩で、粒子が荒いため表面は滑らかでない。78も胴部の破片で、黒色の千枚岩で、表面は滑らかでない。79は基部から胴部の一部で11.5cm、黒色の粘板岩。80は先端部の一部で10.4cm、黄褐色の粘板岩。81も胴部の一部で8.2cm、灰褐色の粘板岩。いずれも表面は丁寧に磨かれている。

11) 凹石 (82~88)

凹石は、总数7点出土している。82は片面に2凹、片面に1凹ある。また両側に敲痕がある。83は片面に深い凹1、浅い凹2、片面に深い凹1、浅い凹1、横面に1凹ある。また片側に敲痕がある。84は片面に2凹、片面に2凹ある。85は片面に2凹、片面に1凹ある。86は片面に大きい凹2、片面に2凹、横面に1凹ある。87は片面に大きい凹1、片面に2凹ある。また周囲に敲痕がある。88は長さ20.5cm、幅10cm、厚さ8cmの台形状の自然石を利用し、表面に5つの凹が並んでいる。裏面には、不整列に4つの凹がある。

12) 磨石 (89~103)

磨石の总数は24点である。球形または、卵形のものが15点、橢円形のものが6点、円板状のもの2点出土している。90・91・99・100は卵形、95・96・球形で全面に磨り痕がある。92・97・101・102はほぼ球形で磨り痕、敲痕がある。また、89・93・96は橢円形で他に比べ大きい。磨り痕、敲痕がある。98は直径約6cm、厚さ1.3cmの円板状の磨石である。103は円板状で両側に切り込みがあり、石鍬として使用している。

13) 敲石 (104~110)

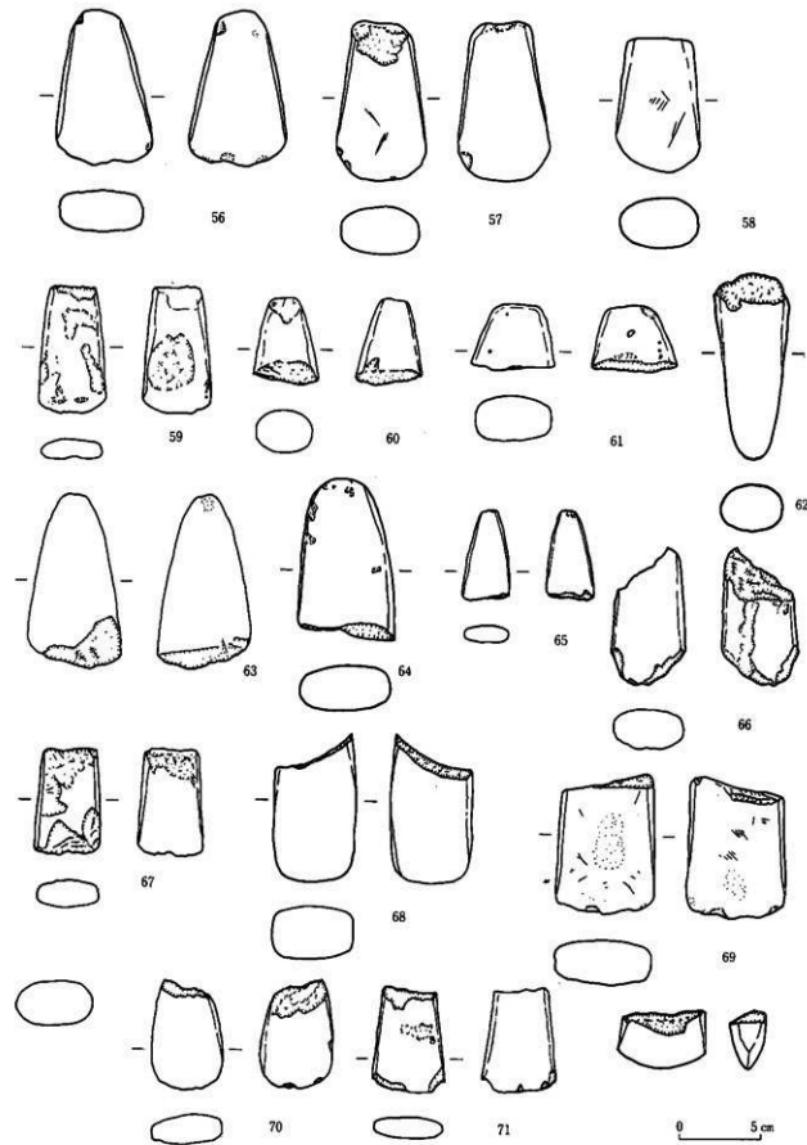
敲石は、总数20点。その内河原石を利用したものが11点出土している。104~108は河原石で両側に多くの敲痕がある。109は花崗岩で、4分の1程欠損しているが、両側に敲痕がある。110は蛇紋岩を丁寧に磨いた敲痕のある磨製石器である。

14) 軽石 (111~114)

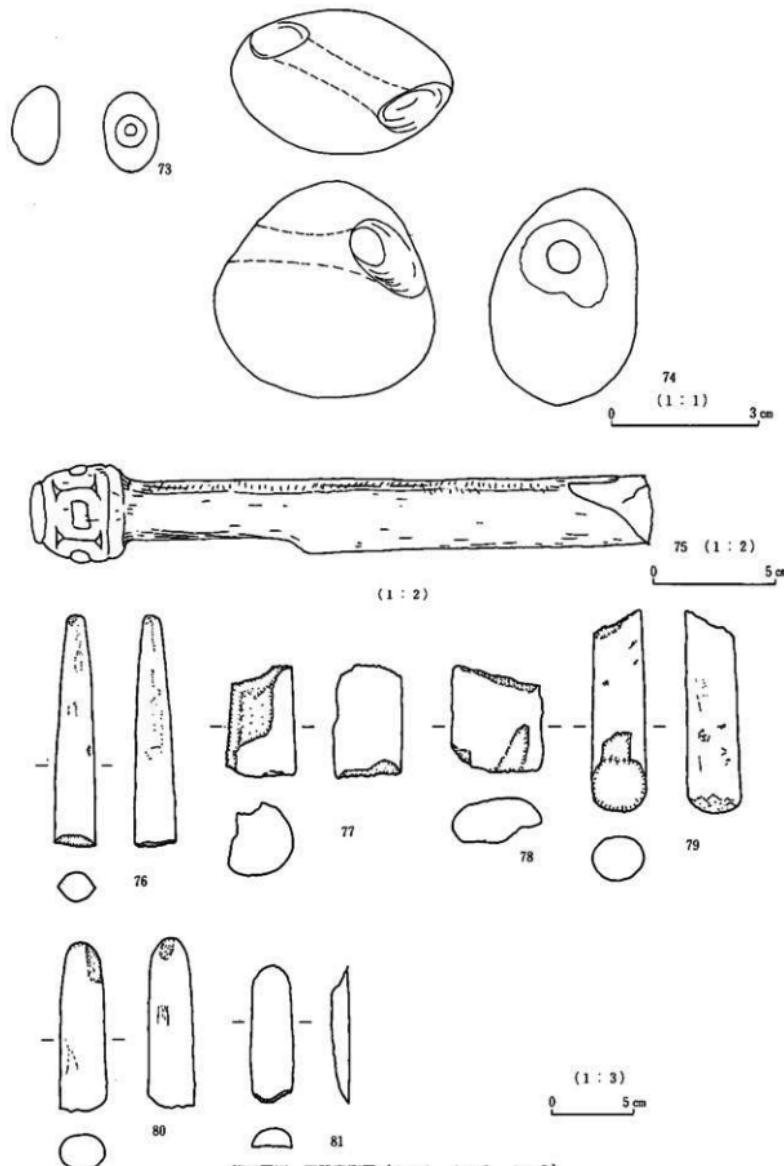
軽石は总数4点出土している。113以外は土坑内より出土している。112は、半分で中央部に直径3.5cm、深さ2.5cmのくぼみがある。

15) 台付石皿 (115)

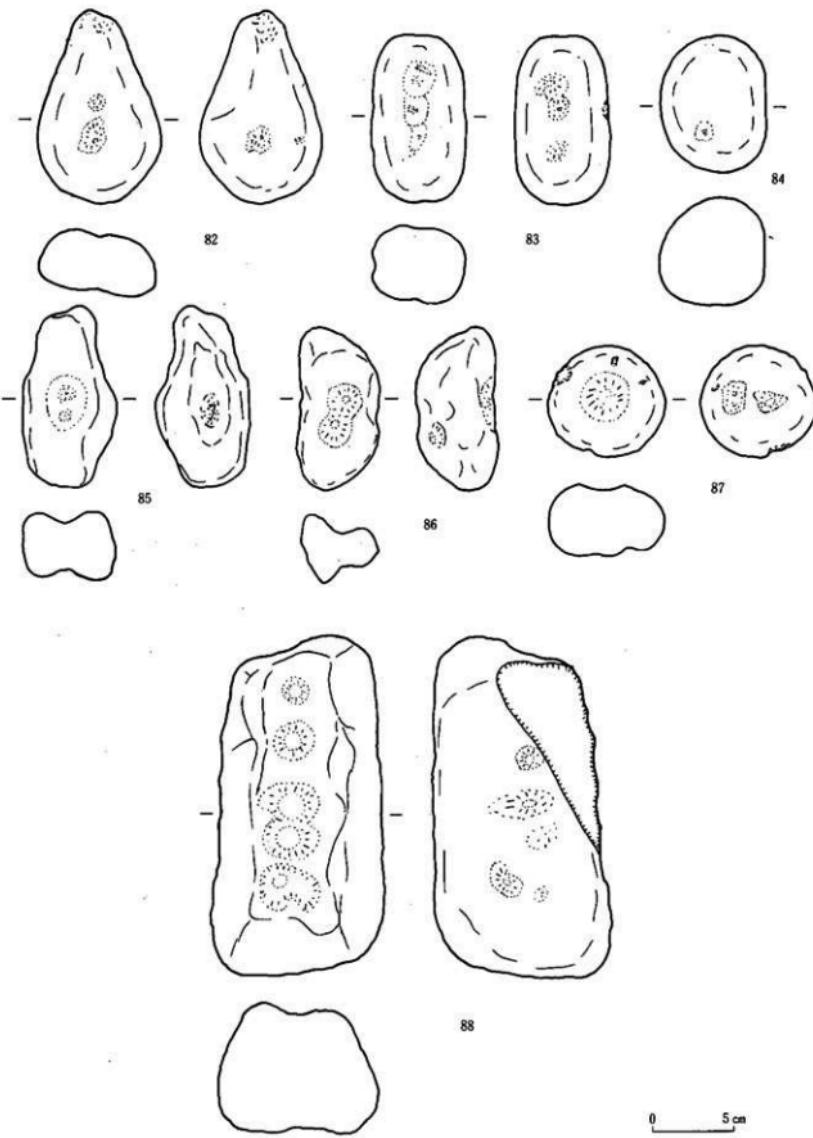
15-F区で、表土除去時に検出された。舟形を里しており約2分の1が残存する。すり凹部の最深部は3cm、幅16cm。舟形の先端部の高さは7cm、幅は20cmで皿部の厚さは3cmである。底部には、3cm×5cm、高さ7mmの凸部が2カ所ある。



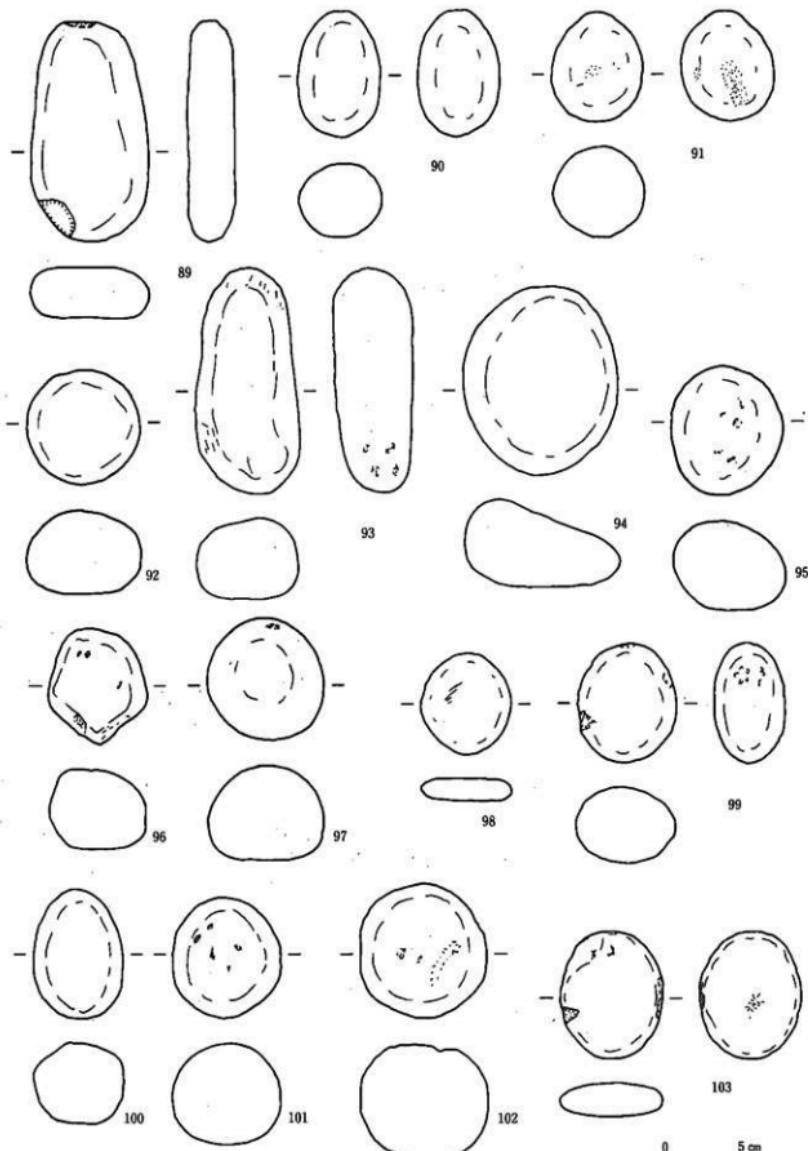
第15図(i) 石器実測図 (1 : 3)



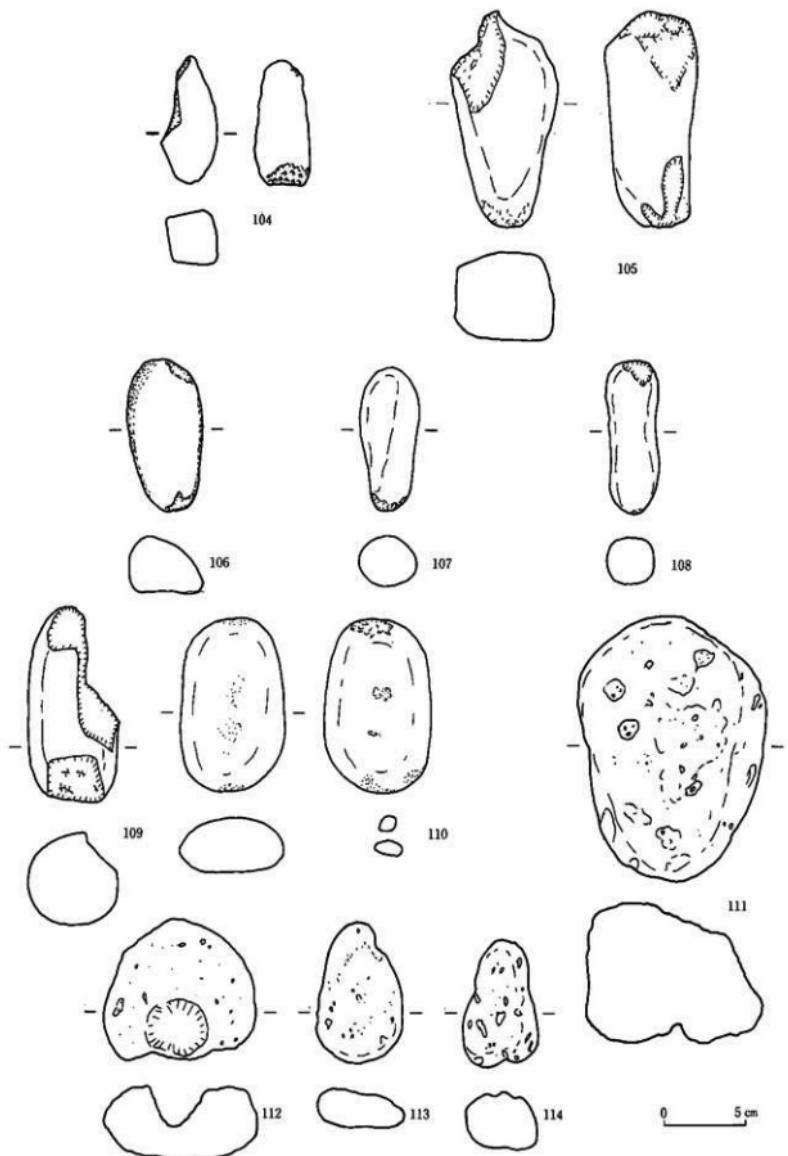
第15圖(2) 石器実測図 (1 : 1, 1 : 2, 1 : 3)



第15図(3) 石器実測図 (1 : 3)



第15図(4) 石器実測図 (1 : 3)



第15図(5) 石器実測図 (1 : 3)

表2 石器計測表

番号	遺物番号	石器名	石質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
1	G-15	打製石斧	安山岩	32.4	7.6	3.7	1250.0	
2	G-15-41	"	"	15.6	6.0	2.7	295.5	
3	E-18P5	"	"	10.3	5.7	2.4	129.1	
4	E-15	"	"	8.4	4.5	2.3	108.2	
5	E-14-15	"	"	9.1	4.1	2.2	102.3	
6	F-15	"	"	7.8	4.4	0.8	34.0	
7	D-18	スクレバ---	"	5.8	6.5	1.1	36.7	
8	G-12-113	"	"	9.0	6.7	1.3	82.1	
9	E-19P1	"	"	7.9	4.1	1.2	42.8	
10	G-14P9	"	"	5.1	9.0	0.9	43.7	
11	E-16-68	"	"	7.5	10.7	2.7	200.7	
12	G-15-124	"	"	8.0	13.5	2.3	285.0	
13	E-14-117	"	"	6.7	7.0	1.9	93.3	
14	D-17石椎基9	尖頭器	"	7.3	3.8	0.9	24.0	
15	G-13P13	"	"	7.7	4.1	1.4	39.0	未製品
16	H-14-52	"	"	7.7	3.5	1.0	35.4	未製品?
17	C-12	"	"	6.5	2.4	1.1	17.2	
18	H-14-15	"	"	5.4	2.9	1.0	21.9	頭部1/3欠損
19	G-11	"	"	5.2	2.5	0.9	10.4	
20	B-12	"	"	6.6	2.5	0.9	15.5	
21	I-15P1	"	"	5.0	2.7	1.0	13.5	未製品?
22	ロームマウンド	"	"	5.6	2.9	0.6	14.8	
23	B-12	"	"	4.9	2.5	1.0	10.5	
24	C-11	"	"	4.9	2.2	0.9	9.6	
25	E-13-100	"	"	6.0	2.4	1.1	16.0	
26	ロームマウンド	"	"	5.3	2.8	0.8	12.5	
27	G-14	"	"	5.0	1.5	0.8	9.5	頭部1/3欠損
28	G-14	"	"	4.4	1.5	0.6	5.0	頭部一部欠損?
29	D-12	"	"	4.7	2.5	0.7	7.4	
30	G-17	石鏃	"	4.6	2.5	0.6	6.5	
31	G-11	"	"	4.7	2.2	0.8	7.2	先端は欠けている

番号	遺物番号	石器名	石質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
32	C-13	石鏃	安山岩	4.1	2.1	0.9	5.9	
33	C-12	"	"	5.0	1.4	0.6	3.6	
34	E-17-7	"		2.8	1.9	0.3	1.2	
35	E-19P 1	"	黒曜石	2.7	1.8	0.4	1.5	
36	E-11P 1	"	安山岩	2.8	1.7	0.5	1.9	
37	G-11	"	チャート	2.6	1.7	0.3	1.0	
38	H-14-28	"	真岩	3.3	2.0	0.5	1.6	
39	D-13-96	"	安山岩	1.8	1.5	0.3	0.6	
40	B-12	"	"	2.9	2.5	0.6	3.6	
41	石棺蓋7	"	"	8.4	2.8	1.0	24.6	
42	I-14P 1	"	"	9.4	1.8	0.7	12.9	
43	C-12	"	"	2.8	1.7	0.6	2.1	
44	E-11	"	"	3.7	2.9	1.0	9.0	先端部欠損
45	C-12	錐(ドリル)	"	4.8	3.0	0.8	10.7	
46	D-12	"	"	3.9	1.7	0.7	5.2	
47	I-15	"	"	3.5	1.1	0.6	2.0	
48	F-11-115	"	チャート	3.9	1.2	0.5	0.9	
49	G-12-58	"	安山岩	4.0	1.2	0.5	2.2	
50	G-15	"	"	3.6	1.0	0.6	2.2	
51	E-18	"	"	4.1	0.6	0.3	3.4	先端欠損
52	G-15	"	"	3.3	0.8	1.0	1.6	欠損
53	G-16P 10	"	"	4.7	0.8	0.7	2.2	
54	H-14P 9	"	"	6.0	1.4	0.8	7.4	
55	E-12-143	"	"	3.4	0.9	0.6	2.2	
56	G-15P 7	磨製石斧	砂岩	9.3	5.2	2.4	181.0	
57	G-18②	"	流紋岩	9.5	5.0	2.8	243.0	
58	E-13P 1	"	"	8.1	4.7	3.0	202.0	
59	C-10P 1	"	蛇紋岩	7.8	3.8	1.2	60.0	
60	E-9	"	砂岩	5.3	3.4	1.6	89.0	
61	G-10-13	"	粘板岩	4.0	4.6	2.8	89.0	
62	G-11-46	"	砂岩	11.1	3.9	2.8	200.0	
63	F-10-32	"	蛇紋岩	10.6	4.6	2.7	263.0	
64	G-19②	"	"	9.5	5.5	2.8	275.0	

番号	遺物番号	石器名	石質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
65	G-16石棺墓15	磨製石斧	蛇紋岩	5.4	2.7	1.0	32.0	小形
66	G-17P 1	"	"	7.5	4.3	2.4	136.0	
67	表採	"	"	6.5	3.7	1.8	86.0	
68	H-14-46	"	流紋岩	8.4	5.0	3.3	268.0	
69	G-17P 1	"	蛇紋岩	8.3	6.3	2.8	256.0	
70	表採	"	流紋岩	6.3	4.5	1.8	99.0	
71	表採	"	蛇紋岩	6.0	4.3	1.2	99.0	
72	D-13	"	"	3.7	5.4	2.2	67.0	
73	埋甕1	玉類	ひすい	1.6	1.1	1.0	2.7	
74	G-12	"	"	4.4	4.4	3.0	55.3	
75	G-15	石刀	"	26.4	4.2	2.0	318.0	
76	F-11	石劍	粘板岩	14.0	2.3	1.8	96.0	
77	F-12	石棒	千枚岩	6.7	3.7	4.4	199.0	
78	E-18P 4	"	"	5.9	5.5	2.7	147.0	
79	G-11-97	"	粘板岩	11.5	3.2	2.7	131.0	
80	表採	"	"	10.4	2.7	2.2	113.0	
81	C-12	"	"	8.2	2.5	1.1	36.0	
82	G-16P 2	凹石	デイサイト	11.5	4.4	3.6	384.0	
83	E-18P 10	"	砂岩	10.0	5.8	4.5	455.0	
84	G-15-81	"	"	8.2	6.7	6.4	490.0	
85	E-18P 5	"	"	10.9	5.7	4.2	285.0	
86	E-18P 5	"	"	9.8	4.5	3.9	196.0	
87	H-14P 8	"	"	6.8	7.0	4.4	259.0	
88	G-18④	"	泥岩	20.5	10.0	8.0	2111.0	
89	G-15-93	磨石	砂岩	13.2	7.2	3.0	495.0	
90	G-15-136	"	"	7.8	5.0	4.5	255.0	
91	G-12-133	"	安山岩	6.6	5.7	5.5	263.0	
92	H-15P 6	"	砂岩	7.0	7.0	5.1	355.0	
93	D-14-99	"	"	13.5	6.4	4.8	707.0	
94	F-13	"	安山岩	11.4	9.7	5.1	755.0	
95	G-14-29	"	砂岩	7.7	7.0	5.5	423.0	
96	G-16-59	"	"	7.0	6.2	4.7	290.0	
97	G-11-156	"	"	7.3	7.2	5.8	420.0	

番号	遺物番号	石器名	石質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
98	F-18-46	磨石	砂岩	6.1	5.6	1.3	56.0	
99	E-18P12	#	#	7.2	6.3	4.6	289.0	
100	G-12-47	#	#	7.8	5.7	4.9	219.0	
101	F-14	#	#	7.3	6.8	6.2	434.0	
102	D-12	#	#	8.2	7.8	6.9	576.0	
103	B-8	#	流紋岩	7.9	6.1	2.0	159.0	磨製
104	G-10-23	敲石	安山岩	7.4	3.2	3.3	125.0	
105	G-10-20	#	#	13.1	6.1	5.2	614.0	
106	H-15-10	#	#	9.3	4.5	3.4	208.0	
107	G-12-106	#	#	8.7	3.6	3.0	142.0	
108	G-16	#	#	9.2	2.9	2.8	145.0	
109	H-15P7	敲石	花崗岩	11.7	5.7	5.7	450.0	
110	E-11P1	磨製石器	#	10.6	6.6	3.3	362.0	磨製石器
111	G-15P2	鞋石		16.4	10.8	8.6	445.0	
112	G-15P7	#		8.5	9.7	4.3	90.0	
113	F-12-225	#		8.5	5.4	2.3	27.0	
114	E-17P4	#		7.8	4.4	3.5	29.0	
115	F-15	台付石皿	安山岩	16.6	19.9	6.9	1875.0	

3 土 器

蕨平遺跡の発掘調査によって得られた縄文土器は、整理箱で約35箱を数える。内容は縄文時代後期初頭から晩期中葉に及びその出土状態は一部の埋蔵資料を除いては明確な遺構に伴うものとしての検出はし得ていない。また、調査区内における時期的な偏在性および層位差の把握も困難であった。よって、土器については型式学的な分類によって呈示したい。しかし、一部の復元資料を除いては、無文及び無文系土器からなる粗製土器が大半を占めることもあり器形的な全容を知ることのできる資料も少なく、縄文時代後期中葉から晩期中葉に至る無文系土器は、その基本的性格として変化が乏しくその微細な特徴分析によって時期差の存在を把握することは現段階で成し得ていない。このため量的には主体を占める無文系粗製の分析が十分ではなく、遺跡の時期的な消長の判断も困難なものとなっている。このため土器については有文土器によって第Ⅰ群から第Ⅶ群土器によって把握し、無文系土器については第Ⅷ群として一括した。

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1) 第Ⅰ群土器 堀之内式併行土器 | 5) 第Ⅴ群土器 大洞B式併行土器 |
| 2) 第Ⅱ群土器 三十種葉式土器 | 6) 第Ⅵ群土器 大洞B C式併行土器 |
| 3) 第Ⅲ群土器 加曾利B式土器 | 7) 第Ⅶ群土器 佐野II式土器 |
| 4) 第Ⅳ群土器 安行2式併行土器 | 8) 第Ⅷ群土器 無文系土器 |

主体を占めるのは後期堀之内式併行土器および安行2式併行土器であるが、縄文晩期の土器も少なくない。晩期における資料としては大洞B式併行土器大洞B C式併行土器が存在するにも関わらず佐野I aおよび佐野I b式資料が出土していない。佐野II式は良好な資料が出土している。

4 土 製 品

1) 耳 飾 り

土製耳飾りは22点出土した。白形のもの6点、環状のもの14点、滑車形のもの2点である。

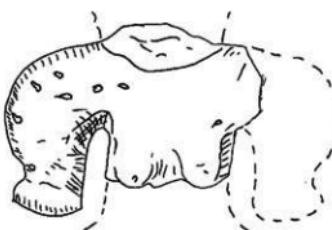
白形のもののうち2点は有孔で、2点には彫刻透かしが施される。

環状のものは無文のもの4点、縁部に沈線や刻みの施されるもの3点、三叉文や玉抱き三叉文の施されるもの7点で、朱彩の痕跡を残すもの5点である。

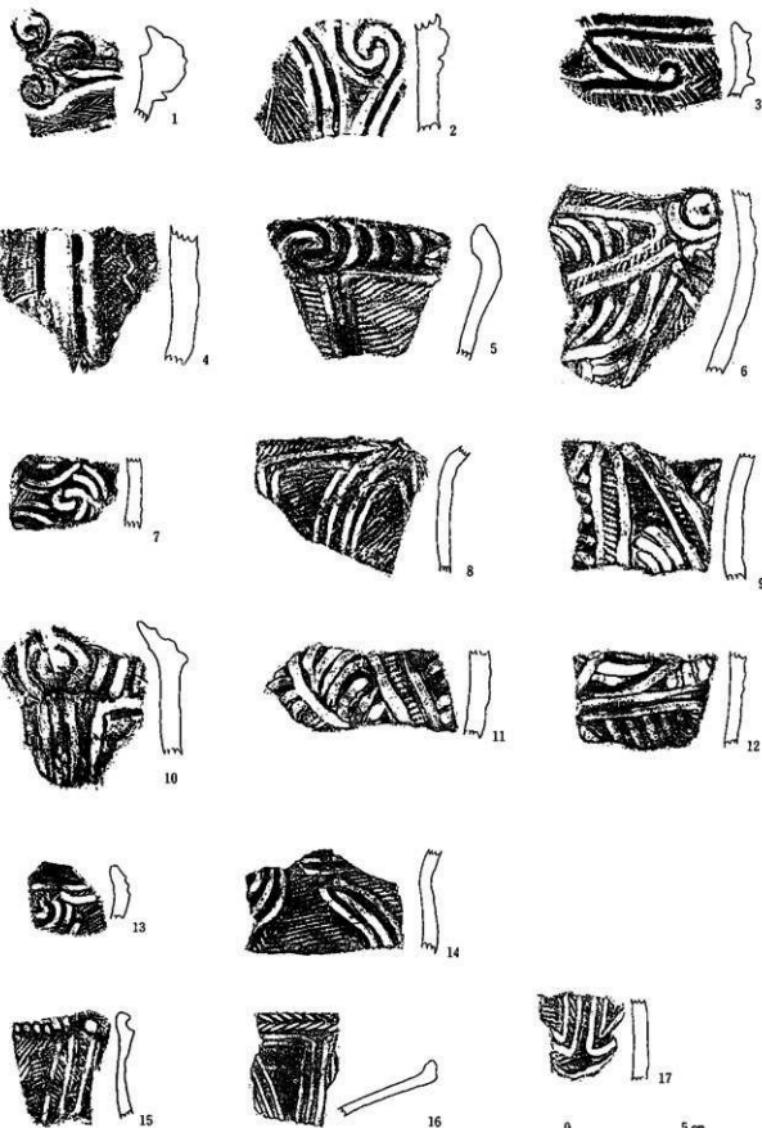
滑車形のものは精巧な透かし彫りが施され朱彩される。

2) 土 偶

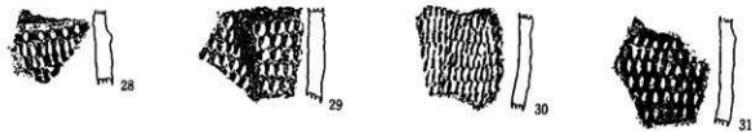
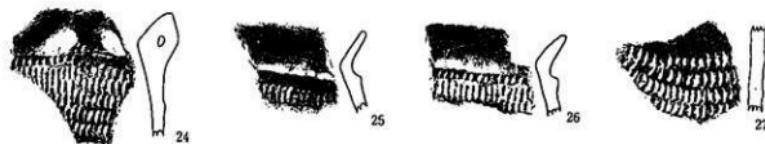
土偶は2点出土し、1点は頭部及び四肢を欠き、やや偏平な胴部のみの資料である。乳房も剥落し欠損するが胸部に朱彩の痕跡を残す。後期後半の資料であろう。1点は右腕と乳房から上の胸部の資料で肩から背部にかけて細い縄文を施し短沈線および刺突列点文が加わる。晩期前半の資料であろう。



土偶 (1:1)

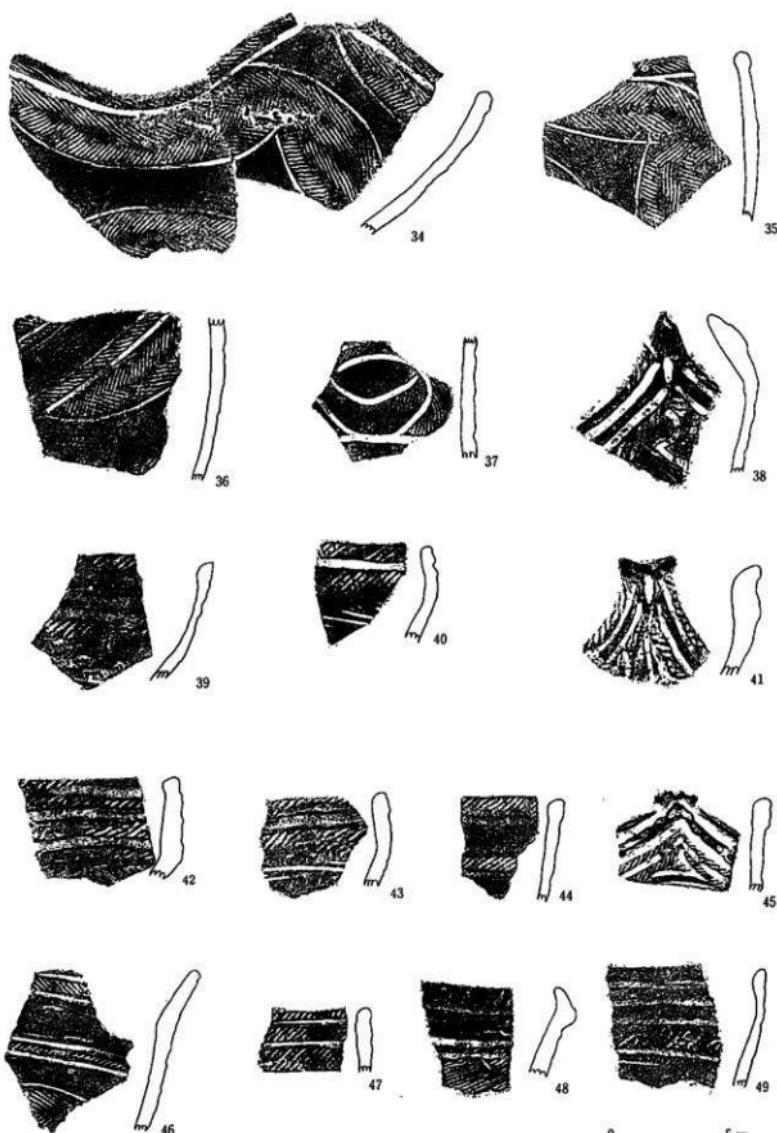


第16圖(1) 土器拓影圖 (1 : 2)

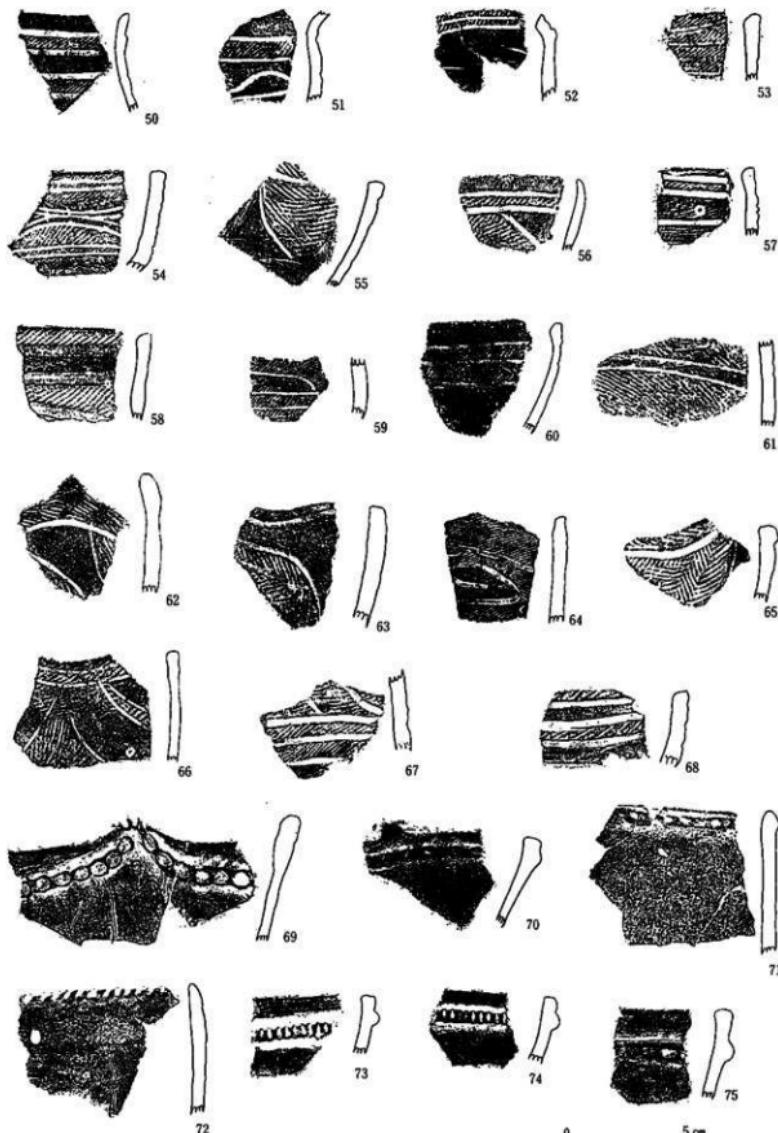


0 5 cm

第16図(2) 土器拓影図 (1 : 2)

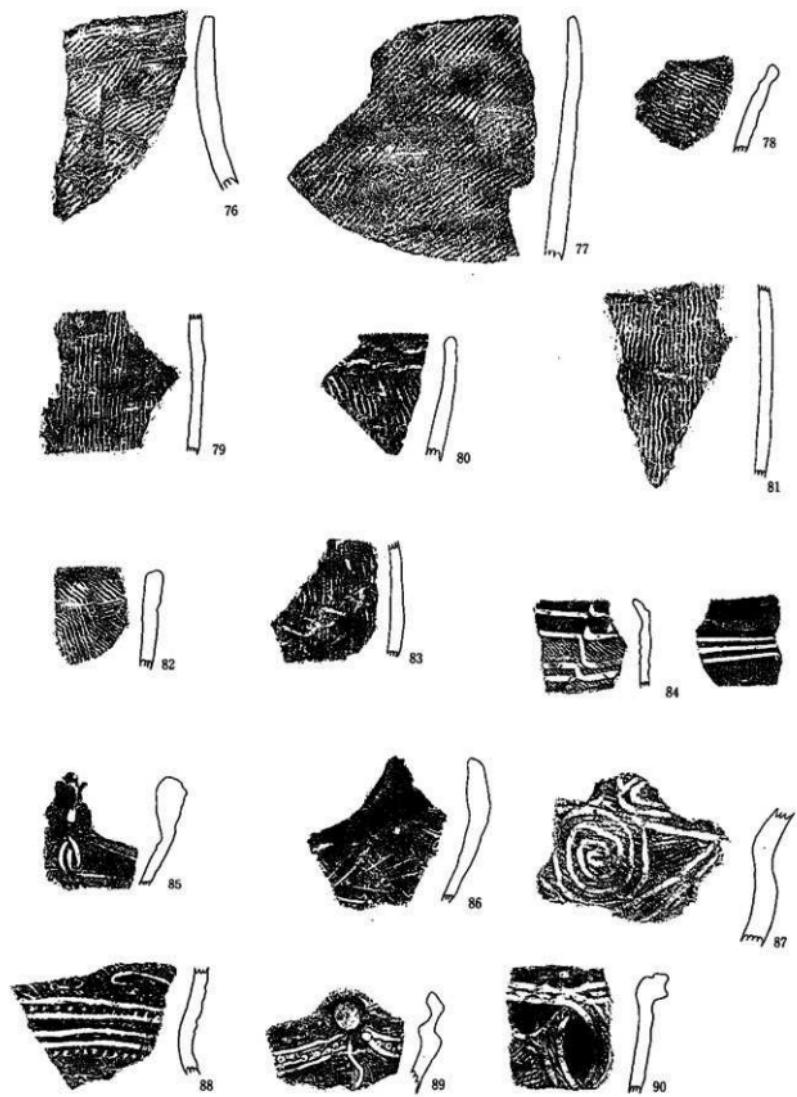


第16図(3) 土器拓影図 (1 : 2)

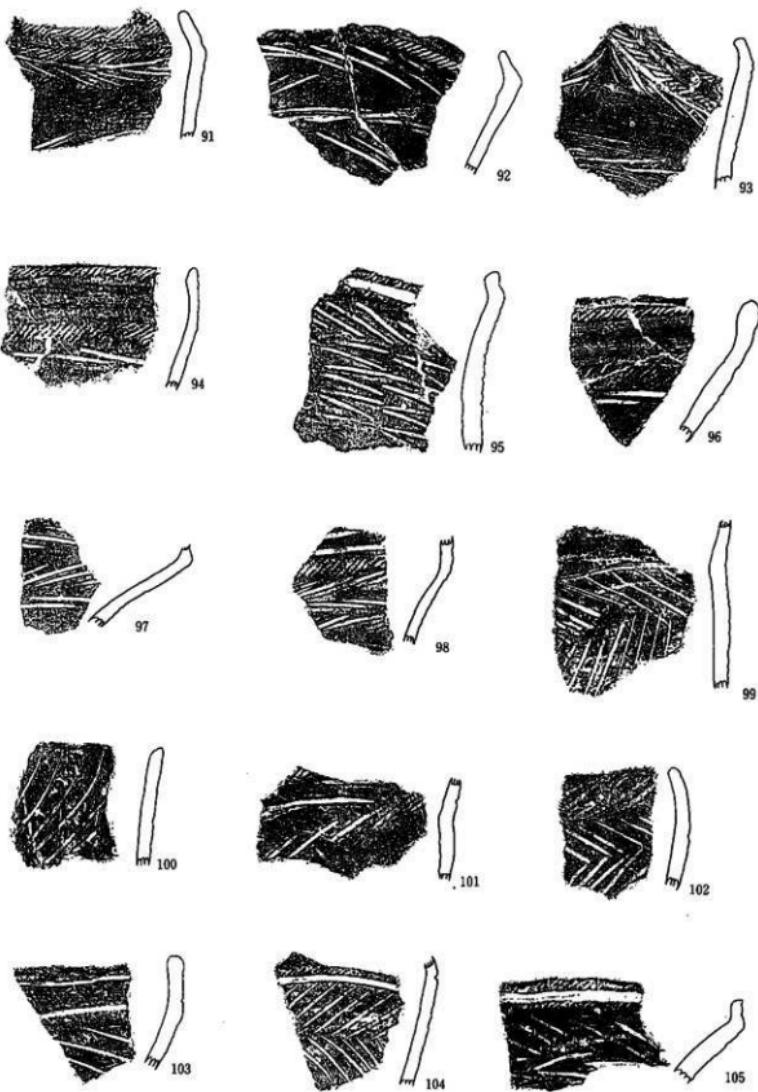


第16図(4) 土器拓影図 (1 : 2)

0 5cm

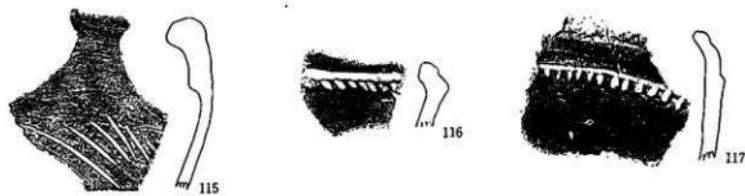
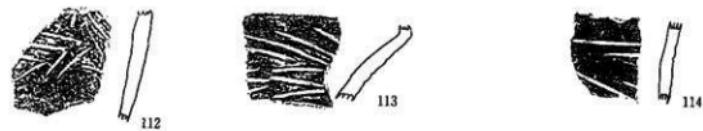


第16図(5) 土器拓影図 (1 : 2)



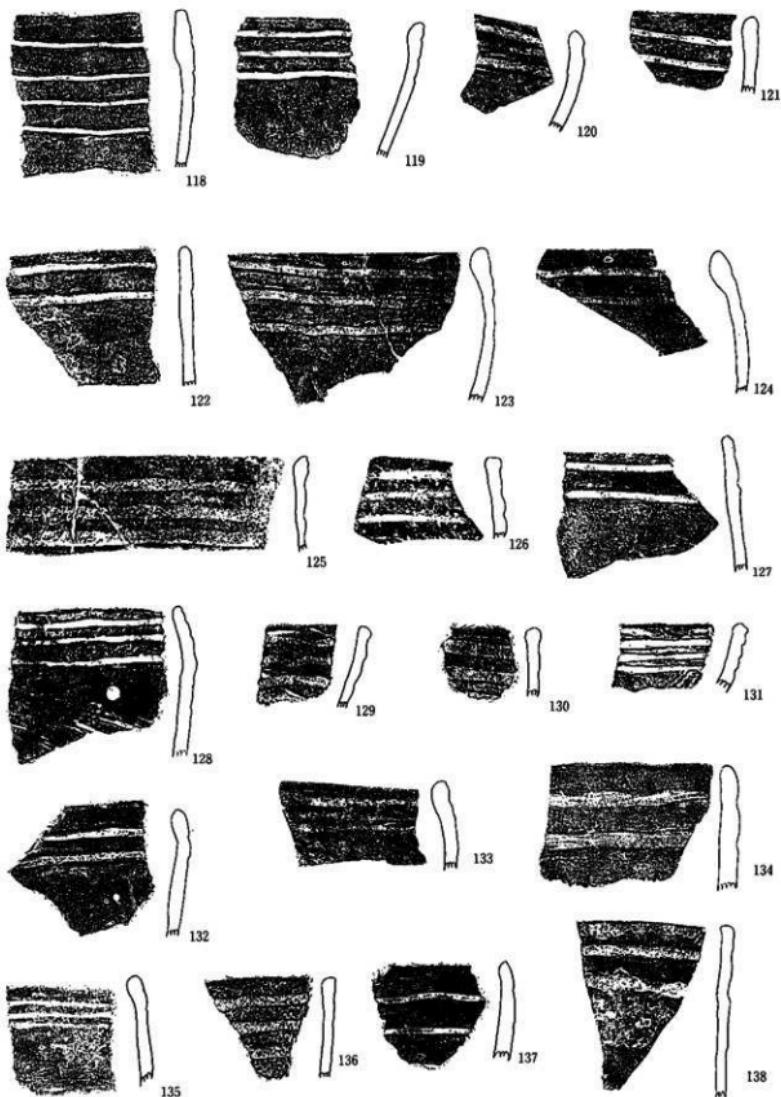
0 5 cm

第16図(6) 土器拓影図 (1 : 2)



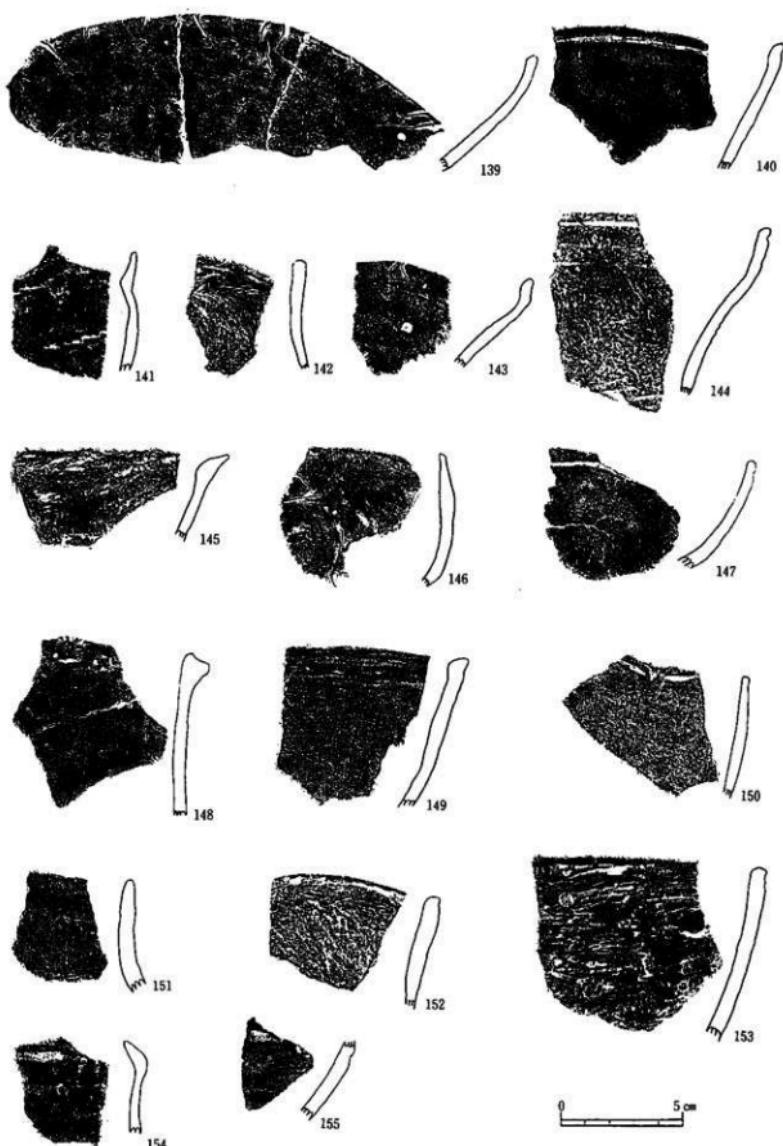
0 5 cm

第16図(7) 土器拓影図 (1 : 2)

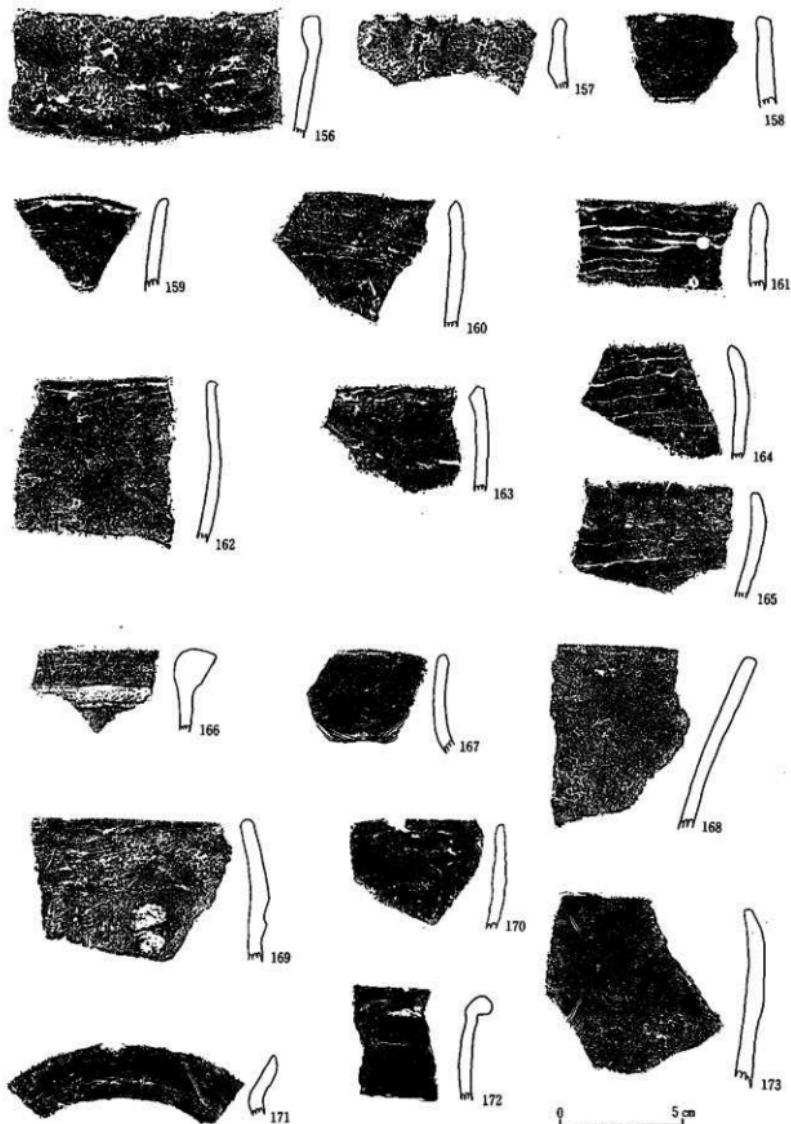


第16圖(8) 土器拓影圖 (1 : 2)

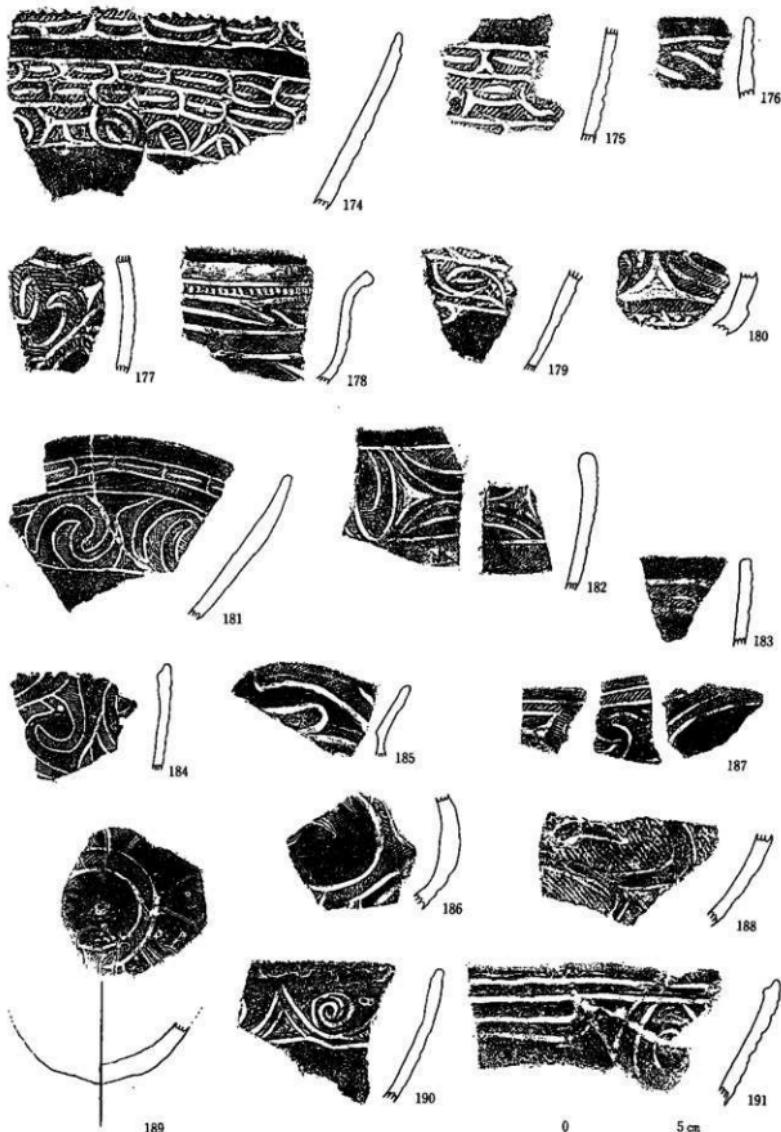
0 5 cm



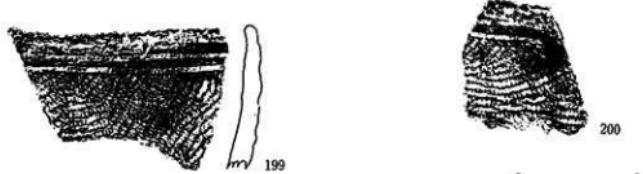
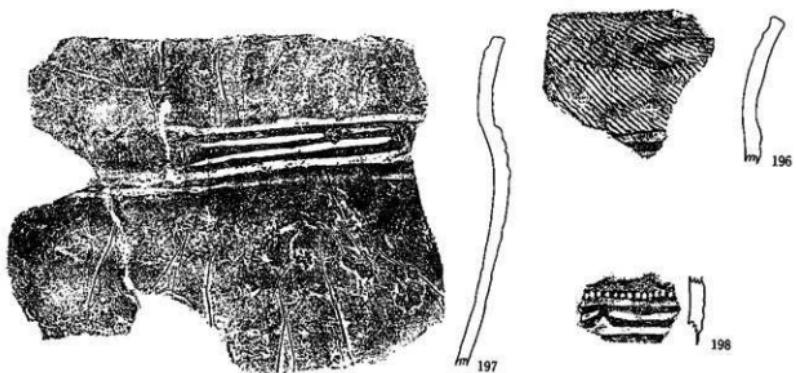
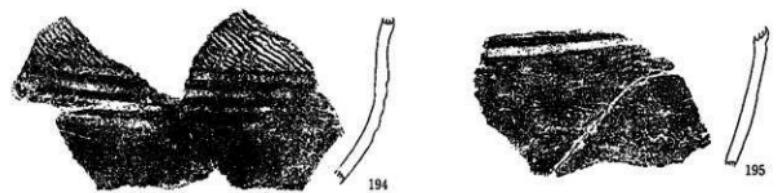
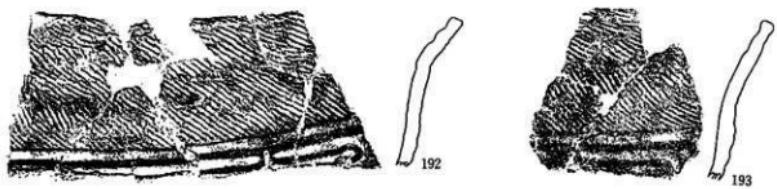
第16圖(9) 土器拓影圖 (1 : 2)



第16圖(0) 土器拓影圖 (1 : 2)



第16圖(1) 土器拓影圖 (1 : 2)



0 5 cm

第16圖(2) 土器拓影圖 (1 : 2)

第4章 中世の遺構と遺物

1 遺 構

(1) 振立柱建物跡 (第17図)

13-G・H、14-H・I区に、東西方向に直径30~40cm、深さ20~30cmの柱穴が等間隔で7個検出された。調査区端のため全体はつかめていない。

(2)火葬墓 (第18図)

11-G区より検出された。長さ120cm、幅65cmの長方形の穴の中央部に20cmあけて北側に20cm×55cm、南側に18cm×40cm・28cm×16cmの石を配し、その間は深く掘られている。その東方向に60cm程溝が掘られている。
中央部付近の焼土の厚さは、10cm以上もあり、骨片が数多く出土した。

2 遺 物

(1) 陶 器

a) 珠洲系陶器 (第19図)

H-14区、直径42cmの土坑、黒褐色の土を32cm掘り下げ、ほぼ底部とみられるところより検出された。片口鉢の底部片で、底部の直径は約13cm、卸目が密に施条されている。

b) 濱戸美濃陶器

14-H区の精査中に検出された。底部と口縁部の一部が欠損しているが、ほぼ完全な形である。鉄輪の花瓶で、高さ11.5cm、底部径7.8cm、胴部径8.3cm、縁部径4cm。胎色は灰白色。底部外面にロクロ糸切り痕が残っている。

(2)銅製仏具 (第21図)

13-H区、直径70cm・深さ65cm、黒褐色の土坑表面より検出された。底部と胴部、口部の一部が出土した。高台の径が2.1cm、高さ3mmである。

(3)銭貨 (第20図・表3)

銭貨の出土は5枚であった。すべて渡来銭で腐食が進んでいる。

『開元通宝』『治平通宝』

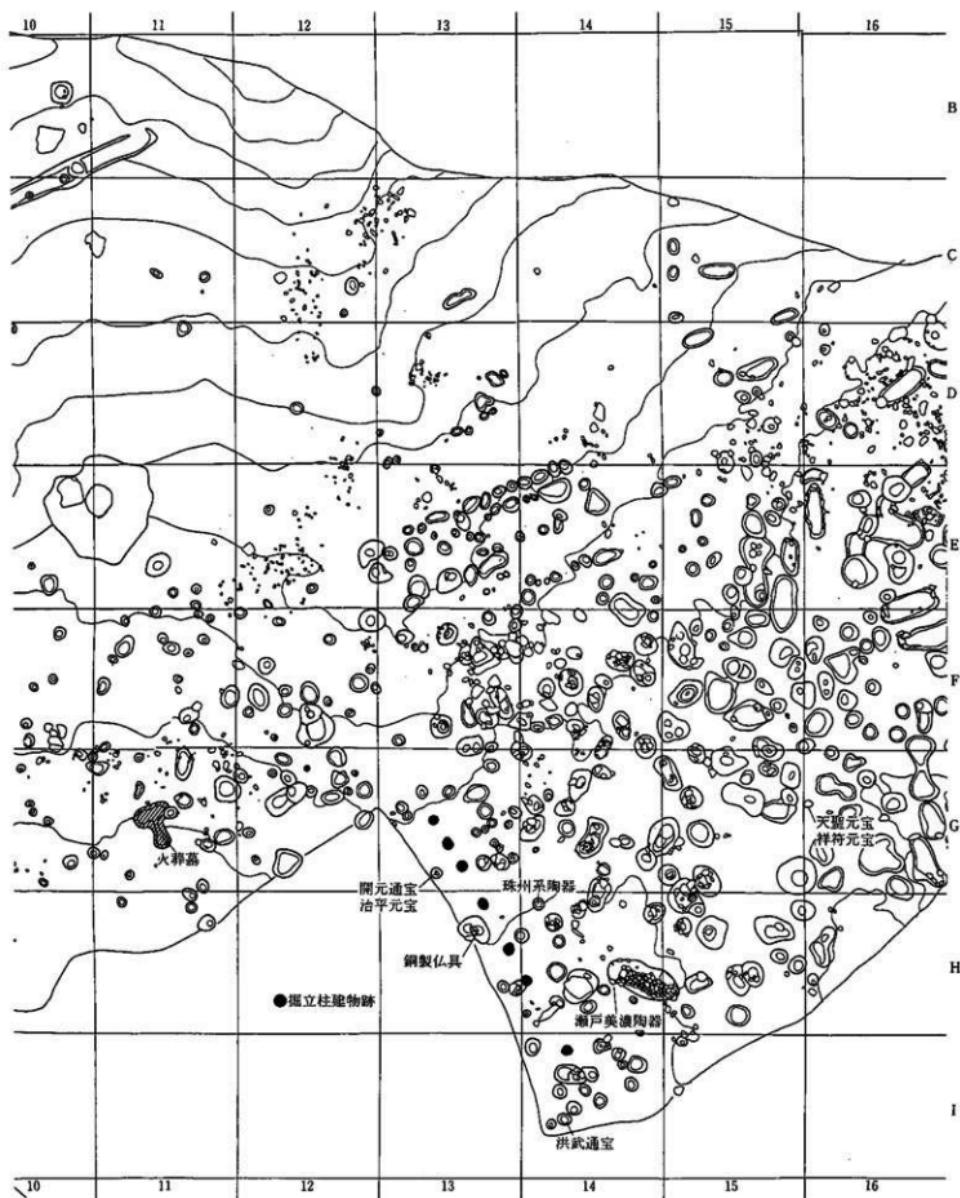
13-G区P₁、直径40cmの土坑、黒褐色の土を表面より22cm掘り下げたところより『開元通宝』が、48cm、ほぼ底とみられるところより『治平元年』が出土した。

『洪武通宝』

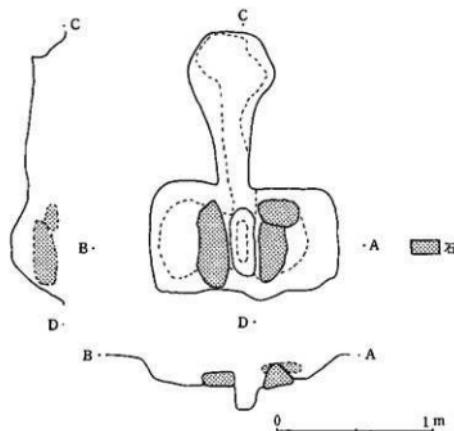
14-I区P₂、直径40cm・深さ45cmの土坑、黒褐色の土を40cm掘り下げたところより出土した。

『祥符通宝』『天聖元宝』

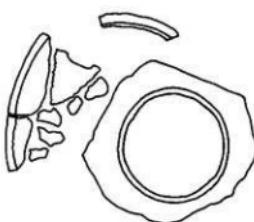
16-G区の水田床土内より2枚重なって出土した。水田造成の際、移動したものと考えられる。



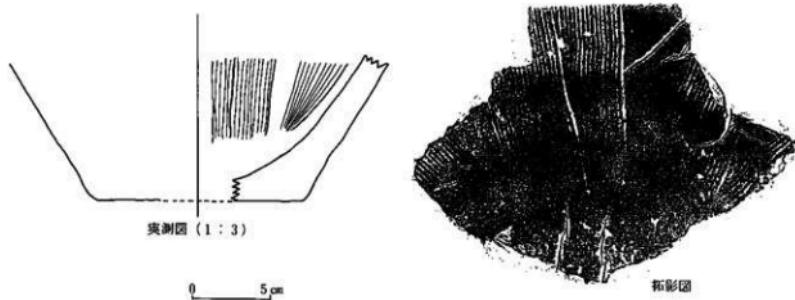
第17図 中世遺構・遺物検出位置図



第18図 火葬墓実測図



第21図 銅製仏具実測図 (1 : 1)



第19図 珠洲系陶器



第20図 銭貨拓影図 (1 : 2)

表3 銭貨一覧表

No	銭名	時代	初鋤年(西暦)	直径	重さ	出土場所	備考
1	開元通宝	唐	武德四年(621年)	2.4cm	1.4g	13-GP1	腐食
2	治平元宝	北宋	治平元年(1,064年)	2.4cm	2.5g	13-GP1	腐食
3	洪武通宝	明	太祖洪武元年(1,368年)	2.4cm	1.6g	14-IP2	龟裂・腐食
4	天聖元宝	北宋	仁宗天聖元年(1,023年)	2.4cm	1.9g	16-G	腐食
5	祥符元宝	北宋	大中祥符(1,008年)	2.4cm	2.4g	16-G	腐食

第5章 まとめ

蕨平遺跡の発見者は、故半藤達朗氏である。氏は、長年隣接の下水内郡栄村郷地区の勤務された。奉職中、考古学に興味をもたれ、遺跡の発見に努められた。氏によって発見された遺跡は、千曲川下流域の旧石器文化研究を大きく進展させる契機となった。本遺跡の発見も、氏のたゆまざる踏査によって得られた成果であった。昭和28年、「長野県埋蔵文化財調査報告書」の第1回として発刊された「下高井」に収録されている小野勝年氏の「下高井地方の考古学的調査」の中には、本遺跡の記載はない。昭和31年発刊の「信濃史料」第1巻上の地名表には、東大流と記載があり、縄文中期の遺跡となっている。遺物所蔵者として半藤達朗氏の名前が記載されている。以上のことから氏の遺跡発見は、昭和20年後半のことと考えてよいであろう。昭和39年11月飯山南高等学校郷土クラブによって発掘調査が行われ、縄文後期土器破片がダンボール2箱分ほど得られたが、遺構の発見はなかった。昭和40年代前半、野沢温泉村史編纂の一環として、立正大学坂詣秀一教授が調査を行っている。そして、旧石器時代の石器及び縄文中・後期の遺物を得られているが、遺構の発見はなかったようである。因みにこの調査の折に、本遺跡を蕨平遺跡と命名されたようである。以後、本遺跡を蕨平遺跡と称呼している。

今回の調査は、例旨に記しているように、国道117号市川バイパス改良事業に伴って行われた。調査の結果、当地方にとどきわめて、貴重な遺構・遺物の発見があった。

以下、簡単に発見された遺構・遺物について若干触れて“まとめ”にしようと思う。なお、発見された遺構・遺物は、縄文後・晚期および中世のものである。最初に縄文後・晚期の遺構についてみよう。今回の調査の最大の成果は、石棺墓群の発見であろう。石棺墓は、全部で15基発見された。内13基は、80m²に満たない狭い範囲にまとまって発見された。墓域として意識的に築造されたものと見なしてよいであろう。ただ、重複関係がみられるところから、年代的には、同一であるとするには、無理であろう。石棺墓の築造年代は、内部から年代を示すような明確な遺物が発見されていないため断定できないが、縄文晚期とみて大きな間違いがないと思われる。石棺墓は、比較的大形のものが多く、中には長辺250cmに達するものもある。ただ、残念なことに耕作土が浅いために、田畠の耕作中に側壁石が多くねきとられているため、上部構造について全く不明である。15基の石棺墓の内、底面に敷石がみられるのは、飛び離れて存在する15号石棺墓だけである。

次に土坑についてみよう。全面に広がり、おびただしい数である。規模も大小深浅さまざまである。この内、30基以上の土坑から骨片が発見されている。このようなおびただしい数の土坑は、何を目的として作られたのか判断できないが、中には土坑墓としての性格を有するものが、何基か存在するものと考えてよいであろう。坑内から発見される遺物からみて、縄文後・晚期数期にわたってつくられたようであるが未整理の部分も多く、今ここでどの土坑がどの時期に属し、どのような性格を有するかは明かにできない。今後の研究課題である。

埋甕は、全部で6個発見されている。いずれも住居址に伴うものはない。埋甕の性格を考える上で一つの問題提起となろう。1号埋甕内部より硬玉製の小玉一ヶが発見された。

この他、焼土がいたる所で発見されている。しかしながら、これらの焼土は果たして住居地に伴う炉址の焼土なのか、はたまた違った意図のもとに使用された痕跡としての焼土なのか不明である。

次に遺物について触れてみよう。まず土器であるが、縄文後期壺ノ内式併行土器、安行II式併行土器が主体を占めているが、新潟県境に近いせいか三十稲葉式土器も混じるなど複雑な様相を示している。後期土器ほど量的

に多くはないが、大洞B式・大洞BC式併行土器、佐野II式土器の出土がみられる。佐野II式土器の出土がみられる。佐野II式土器の存在が指摘できるのに佐野I式土器が認められないことは、どのような理由に基づくものだろうか。本遺跡と佐野遺跡とは40mも距れていない。この点も今後の研究課題といえよう。そのほか土偶2点、耳飾り22点が発見されている。

石器についてみれば、磨製石斧、打製石斧、スクレイパー、尖頭器、石棒、石鎌、石刀、石剣、石皿等各種多様である。繩文後・晚期歴平に住居した人々の生活内容の豊富さを物語っているようである。

さて、今回の調査では、以上述べてきたように石棺墓をはじめ各種の土坑、埋甕等貴重な遺構が多く発見されているにもかかわらず、住居址が発見されないのは何故だろうか。村人達の話によれば、千曲川に面する台地の西北端面は、かつてはもっと千曲川に向かって突出しており、台地面はもっと広かったという。道路の敷設工事により、台地の縁辺部は大きく開削され、更に縁辺部の崩落等があり、台地は大分せばまたたという。従って、かつて、台地は千曲川に直接面する広さをもっていたことになろう。あくまでも推定であるが、住居が営まれた場所は、今は失われてしまった台地の縁辺部一千曲川を直接臨む地点に位置したものと考えたいのである。

中世に属する遺構、遺物としては、掘立柱建物址、火葬墓、珠洲系陶器、瀬戸美濃陶器、銅製仏具、錢貨等が発見されており、中世庶民生活の一端を語りかけてくれる。

以上のように今回の調査は、大きな成果をあげたのであるが、遺構、遺物があまりに多く、しかも多様であるため本報告書では、詳細な分析検討を加えるまでにはいたらなかった。折をみて、分析検討を行いたいと思っている。

末尾ながら、種々ご指導いただいた諸先生方、額に汗して発掘作業に従事された作業員の皆様方に心よりお礼申し上げる。

写 真 図 版



調査前風景



調査前風景



重機による表土除去作業



作業風景



作業風景



作業風景



作業風景



作業風景



作業風景



遺物分布状態



遺物分布状態

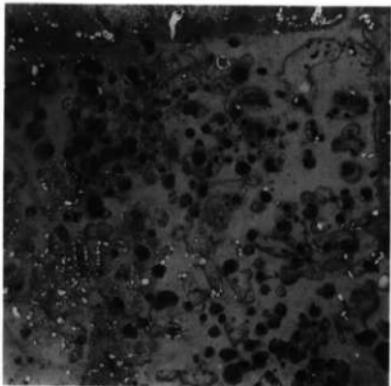


遺跡付近航空写真



対岸から見た遺跡遠景

図版 4



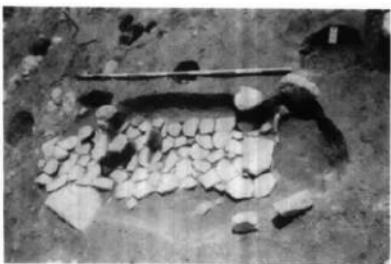
石棺墓址群



11号石棺墓



12号石棺墓



15号石棺墓



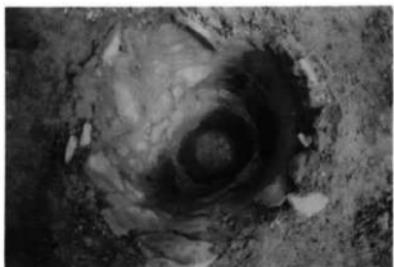
2号埋甕



1号埋甕



3号埋甕



4号埋甕



5号埋甕



6号埋甕



石團戸



SK 4



SK 18



SK 40



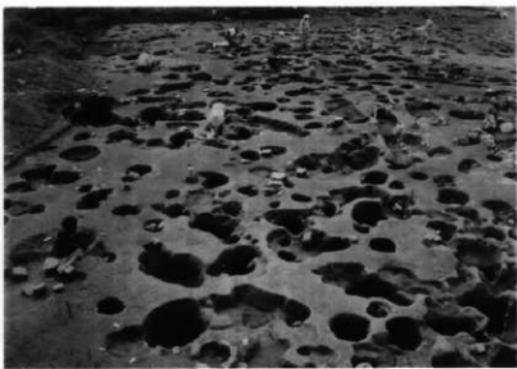
火葬基



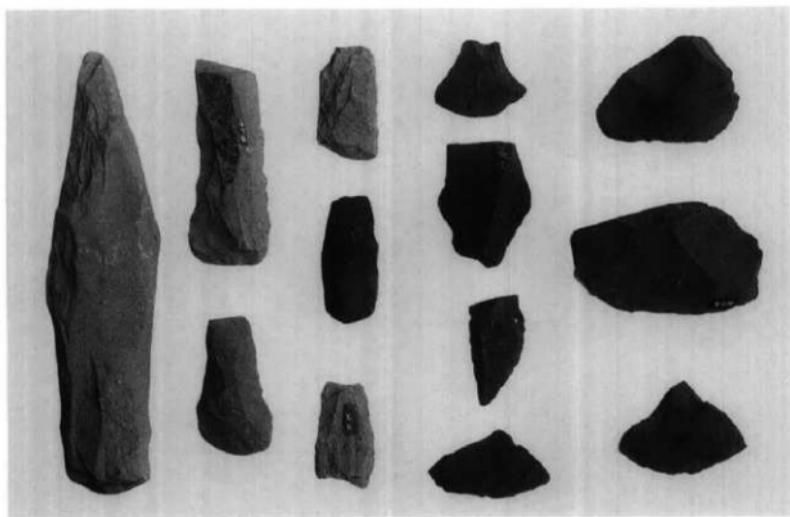
調査地全景（空中写真）



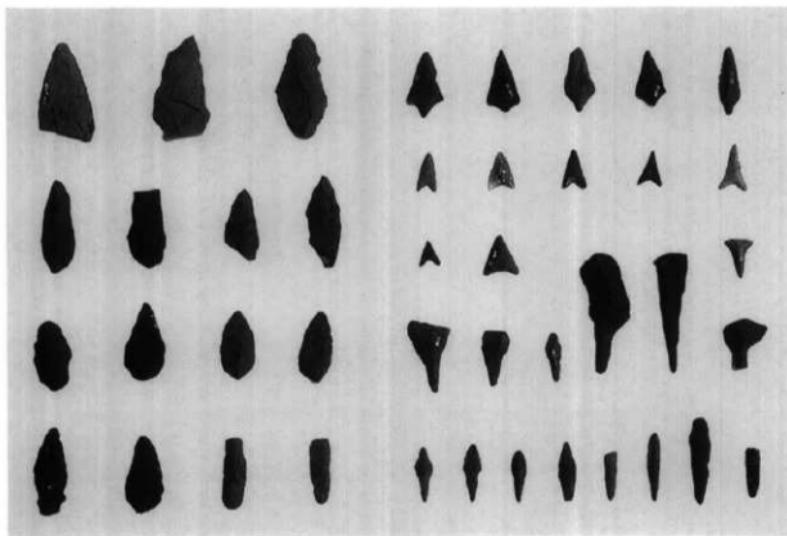
土坑群（南西から）



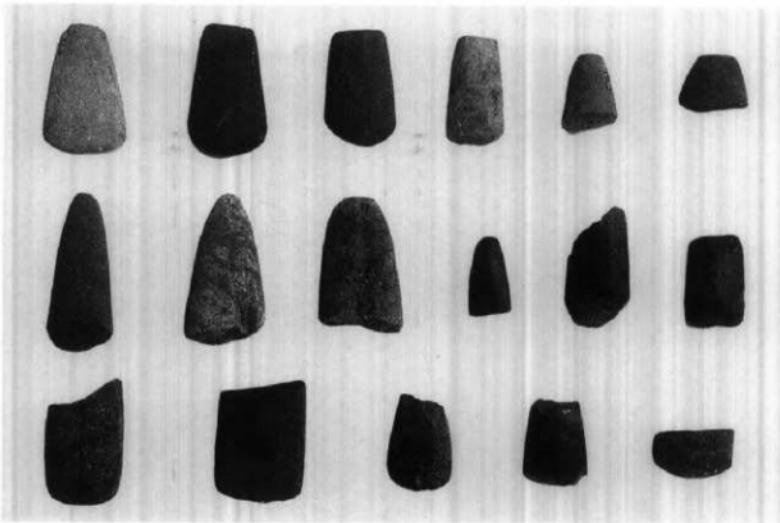
土坑群（北東から）



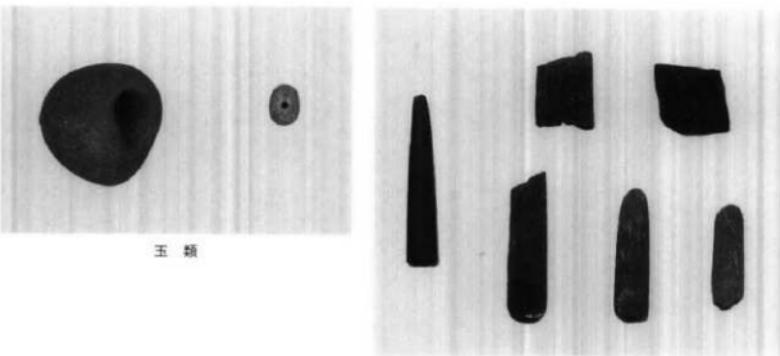
打製石斧・スクレイバー



尖頭器・石鎚・ドリル

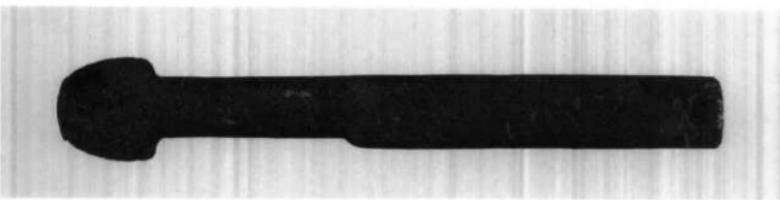


磨製石斧

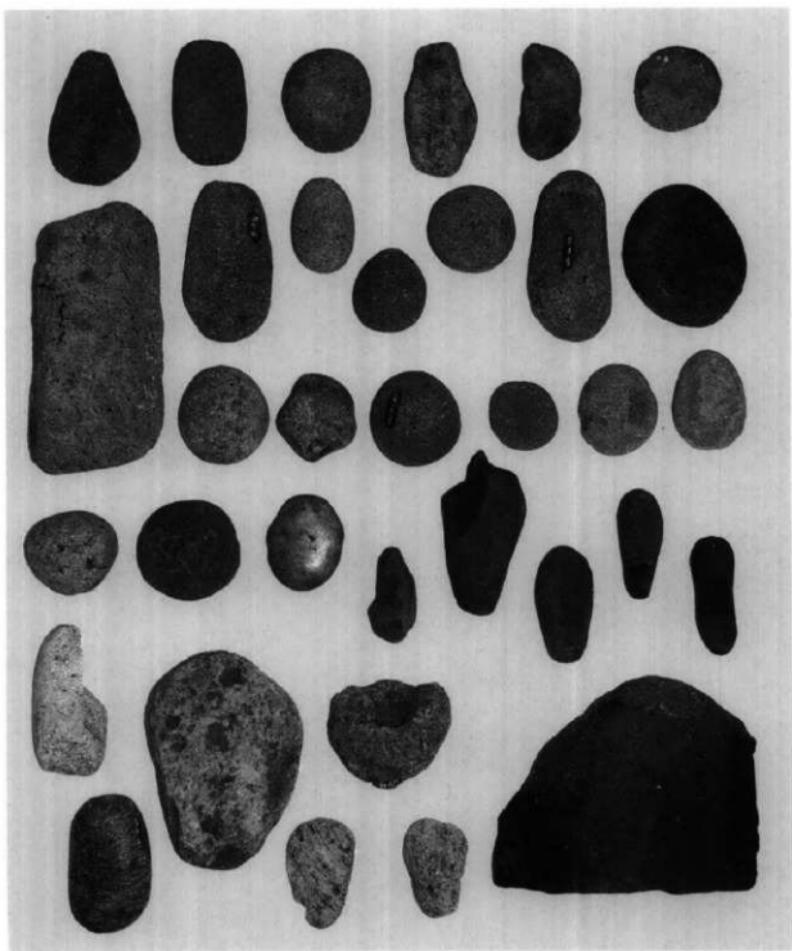


玉類

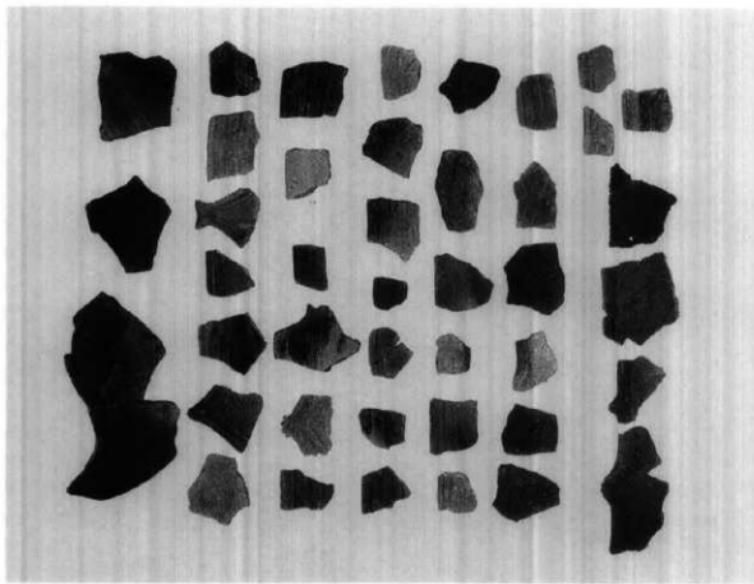
石劍・石棒



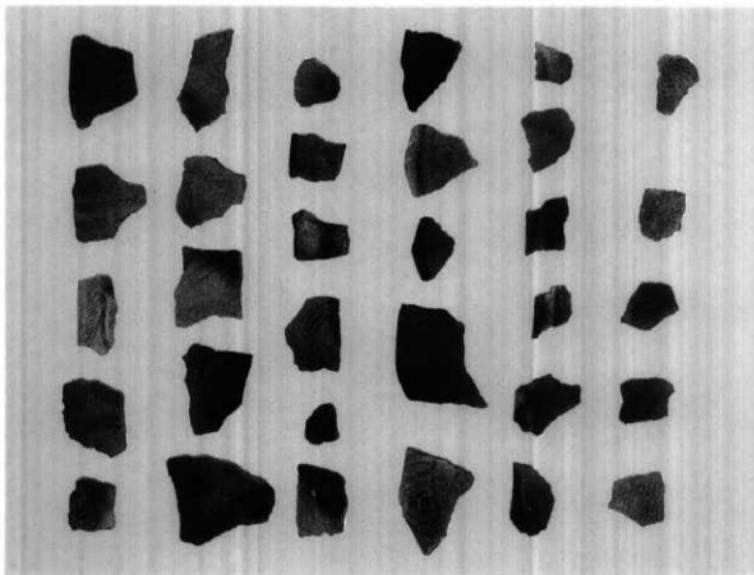
石刀



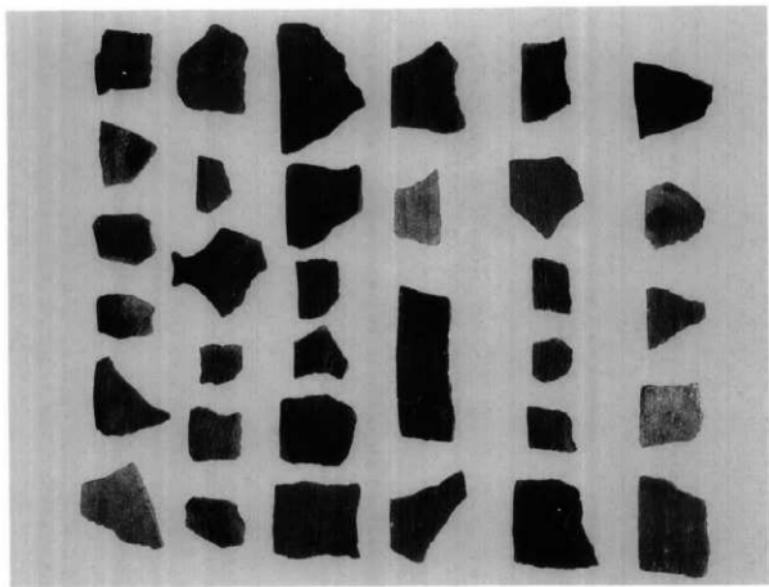
凹石・磨石・敲石・鞋石・台付石皿



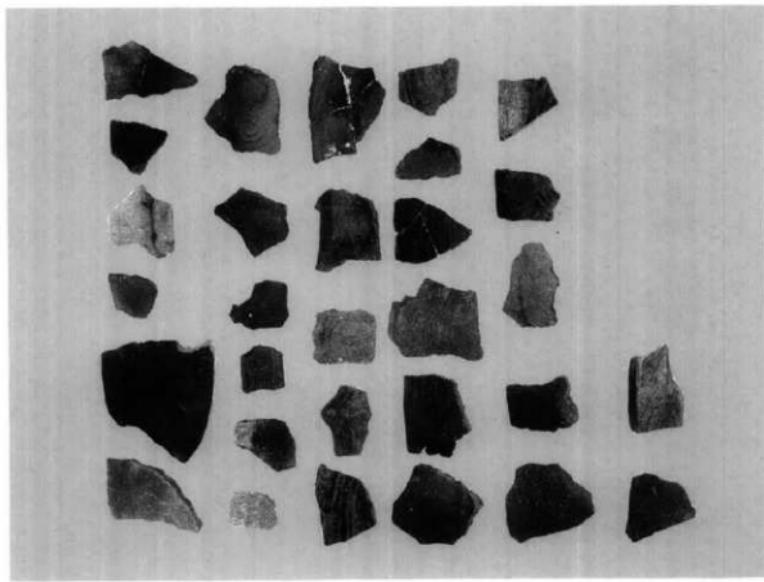
出土土器 (34~75)



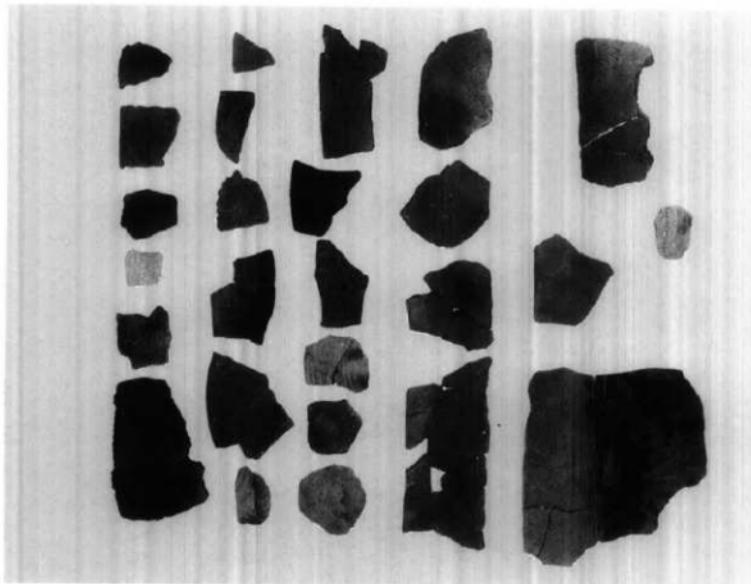
出土土器 (1~33)



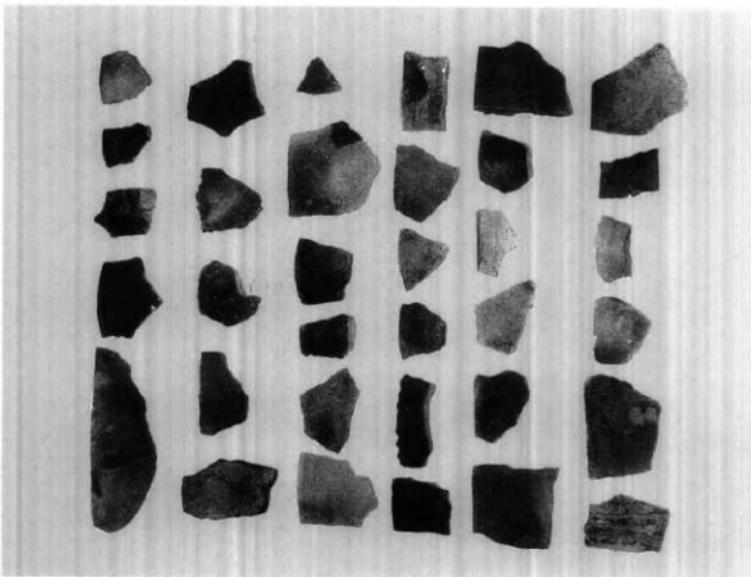
出土土器 (106-138)



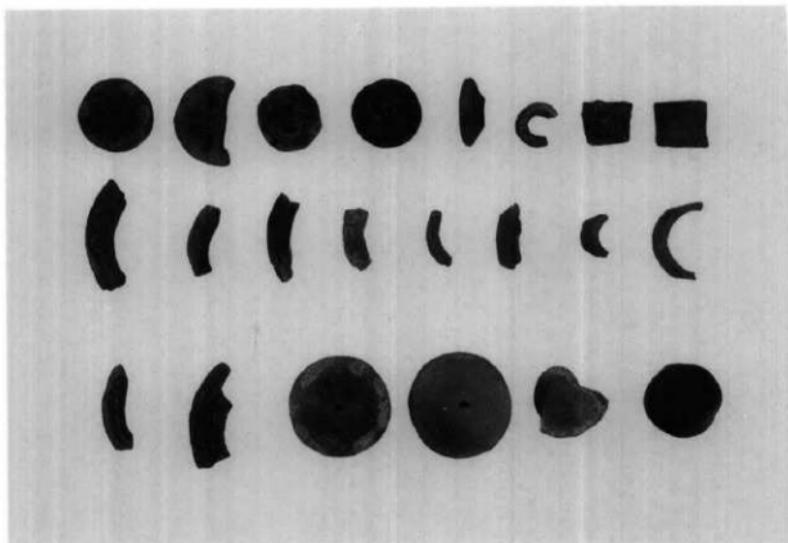
出土土器 (76-105)



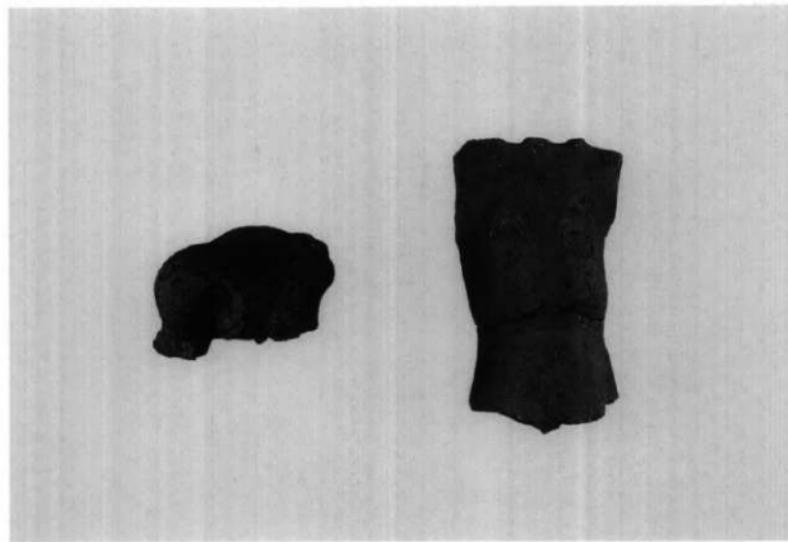
出土土器 (174~200)



出土土器 (173~179)



耳飾り



土偶

野沢温泉村埋蔵文化財発掘調査報告書

蕨平遺跡

—国道117号市川バイパス道路改良事業発掘調査報告書—

平成6年3月20日 印刷

平成6年3月25日 発行

福児 集行 野沢温泉村教育委員会

印刷 ほおづき書籍株式会社

